なよたけ

情報版
2016.10.1
no.22

実践桜会行事日程

平成28年

4月初旬	「那与竹」第79号発行
5/15(日)	定時総会・懇親会 (於:セルリアンタワー東急ホテル)
6/18(土)	実践キャリアネット総会・講演会
8/10(水)～18(木)	実践桜会会館夏期休館
10月初旬	「なよたけ情報版」第22号発行
10/1(土)	秋季運営委員会(於:実践桜会会館)
	第1回実践桜会奨学生・ 国際交流基金奨学生交流会 (於:実践桜会会館)
10/8(土)	学祖祭(於:実践桜会会館)
	護国寺墓参、お供え香
10/15(土)～16(日)	大学・短期大学部「常磐祭」(渋谷キャンパス) 協賛金・桜会賞授与
10/29(土)～30(日)	実践桜会バザー(於:中高ときわ祭)
11/12(土)～13(日)	大学・短期大学部「常磐祭」(日野キャンパス) 協賛金・桜会賞授与
11/19(土)	実践キャリアネット第1回セミナー開催
12/27(火)～1/5(木)	実践桜会会館冬期休館

平成29年

1/8(日)	初春歌舞伎観劇会(於:国立劇場)
1/9(祝・月)	祝成人の会(於:桃夭館)
1/21(土)	実践キャリアネット第2回セミナー
3/4(土)	第2回実践桜会奨学生・ 国際交流基金奨学生交流会 (於:実践桜会会館)
4月初旬	「那与竹」第80号発行
5/21(日)	定時総会・懇親会 (於:セルリアンタワー東急ホテル)

下田歌子先生　明治41年宮中参内
先生の御衣装は技芸科生徒の製作による。
実践桜会所蔵貴重品より

告知板

♥結婚相談室♥

相 談 日：原則として毎月第2、第4土曜日・10:30～16:00
(10月第2土曜日は相談日が変更になる場合があります。)
休　　室：8月第2土曜日、12月第4土曜日
会　　場：実践桜会会館
入会資格：本校卒業生及び卒業生のご紹介の心身共に健康な男女
入 会 金：2万円、書類代：1千円
入会時に持参するもの：入会ご希望の本人直筆の履歴書
写真5枚(本人のみ、スナップ可)
☆秘密厳守で評判の良い相談室です。
☆詳細は相談日にお問い合わせください。
連 絡 先：TEL 03-3407-7459(実践桜会会館)

ハーダンガー刺繍教室

ノルウェーの西海岸にある数多くのフィヨルドの中のハルダンゲルフィヨルドを更に奥深くさかのぼった所に、ハーダンガーの起源となったハルダンゲルの町はあります。

昔からこの町は美人の多いこと、衣裳の風雅なことで有名であると「世界地理風俗大系」に示されていますが、今でも素晴らしい民族衣裳は、結婚式用・儀式用と大切に伝承されています。

ハーダンガー刺繍の基はドロンワークと呼ばれるもので、ドロンワークはギリシャで手技手芸として発達し、縦横の糸を格子状などに抜いてかがっていく方法で、この芸術的なレース模様はイタリアからヨーロッパの各地に広がり、16世紀には一方でノルウェーの神秘的なフィヨルドの奥深くハルダンゲルにも広がっていきました。

当時の手芸の歴史を見ると、我が国には大正の初期ドロンワークと共に宣教師によってもたらされました。

講習日 毎月第2木曜日　中岡久恵

実践桜会囲碁教室

同窓生数名で始めたこの会も、現在はその人数も増え、外部の方々も含め毎回10名ほどのメンバーが参加しています。教室の前半は、講師による講義で毎回新しい問題に取り組みます。後半は二手に分かれ、講師との対局、メンバー同志の対局を楽しんでいます。初心者も安心して学べる場です。もちろん経験者も先生の的確なご指導で腕を上げるチャンスです。どうぞ一度足をお運びください。同窓生のご家族だけでもご参加いただけます。お誘いください。(J.Y)

教室風景(講師による講義)

[教室の開室予定日]

原則として、第2、第4月曜日
時間 13:00～16:00
10/17、10/31、11/14、11/21、11/28、12/12、12/19
2017年 1/16、1/30、2/6、2/13、2/27、3/6、3/13、3/27
自由対局 (11/21、2/6、3/6) 10:30～16:00まで
[会　費] 一回 1,000円(自由対局 500円)
[講　師] 柳川正興(アマ6段)
[連絡先] TEL 03-3407-7459 実践桜会

実践桜会会館・貸室のご案内

明るい新会館をクラス会、サークル活動、各種打ち合わせ等にお気軽にご利用ください。

詳細は実践桜会事務局(TEL 03-3407-7459)へお問い合わせください。

[編集後記]

- 広報部の担当者は4人全員が新しく変わりました。広報活動編集作業などに関して未経験者です。理事長をはじめ皆様のお力添えを頂きながら今回の「なよたけ情報版22号」を発行することができます、ご執筆などご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。(E·K)
- 桜会機関誌「なよたけ情報版」の充実した誌面の質をなるべく落とさないように、発行期日を守るようにと、やっとの思いで発行に漕ぎつけることができました。今回、桜会は支部の皆様の活動が基盤になっていることを改めて感じました。(K·Y)
- 今回晴天の霹靂ともいう広報部のお役目拝命、読み手から作り手に一変しました。暗中模索の日々、広報部のお仲間と支えあって何とか進めてきました。初陣ということで様々ご容赦ください。(S·T)
- リオ·オリンピックイヤーの2016年5月に広報部の活動を引き継ぎ、すぐに"なよたけ情報版"の編集が始まりました。基本姿勢は継続することとなり新たな領域にチャレンジできたこと嬉しく思いました。(E·G)

【寄附者ご芳名】(敬称略)
古野和子、故 定村嘉美子、伊藤敬子、向山栄子、佐野 滋、中原和子、鈴木真知子、鈴掛まゆみ、鍛島康子、昭和48年高校卒同窓会

編 集・発 行：一般社団法人教育文化振興 実践桜会
編集·発行人：鈴掛まゆみ
〒150-0011 東京都渋谷区東1-1-40
TEL：03-3407-7459　FAX：03-3499-0835
H P：http://www.j-sakura.org
広報部メールアドレス：
jissen-sakura-koho@dance.ocn.ne.jp
振込口座：東京00190-0-2384
転居された場合はご連絡ください。
印刷：株式会社ローヤル企画

会費納入のお願い

実践桜会は皆さまの会費で運営されています。年会費2,000円の納入をよろしくお願いします。

転居・改姓等をされた方及び会費のコンビニ入金をされる方で住所変更もある場合は、会員番号をご確認の上、実践桜会事務局(TEL:03-3407-7459、FAX:03-3499-0835)までご連絡ください。

©2016　一般社団法人教育文化振興 実践桜会 無断転載禁止　Printed in Japan

Message

見出しと第一印象

実践女子学園理事長
井原　徹

みなさんは新聞や雑誌などを読むとき、記事をどうやって選んでいますか？大抵の人は「見出し」を読んで、面白そうだからこの記事を読んでみようという気になると思います。見出しとは、読者に読ませるための、内容を濃縮した刺激的なフレーズです。新聞社には、取材して記事を書く部隊（記者）と、その記事に見出しを付ける専門部隊とがあるようです。専門部隊は、記者が書いた記事を読者に読ませるために、短いフレーズを独自に考え出す部隊です。

見出しは、一目で記事の中身を連想させる仕掛けです。時間のない人は、見出しだけ読み、いま世の中に何が起きているかということだけを把握する人も多くいます。見出しだけでもざっと目を通しておくと、世の中の動きを把握することができるので、見出しの存在は大切です。

私たちの「出会い」にも同じような現象が起きています。初対面の時に、相手の顔、声、体つきなどを「見出し的」に把握し記憶します。背の高い人だった、声の大きな人だった、笑顔が素敵な人だった、などなど。

第一印象で何よりも大切で効果的なことは、やはり「笑顔」ではないでしょうか。素敵な笑顔は長く記憶に残るものです。怒った表情や冷たい表情は、印象には残るかもしれませんが、好感は残しません。

また、声の質やしゃべり方も印象に残ります。落ち着いたしゃべり方、分かりやすいしゃべり方は、好印象になります。特に、傾聴してくれる相手には、好印象を持つものです。表情豊かに相槌を打ってくれる人だったら、最高に嬉しくなりませんか。

こんなことを何故書いているかというと、声も表情も、そのあとの会話に繋がる重要な「見出し」であるにも関わらず、それらを軽視して、いきなり内容に入るスタイルの人が多くなったように感じるからです。家庭でも職場でもコミュニケーションへの導入が上手くいかず、質の高い会話が薄れてきているようにも感じているからです。会話における最初の「見出し」があらゆる面で稚拙になり、創意工夫が失われてきていると感じます。

最近の目撃で何よりも信じられないのが、二人でスマホを操作しながら時々相手を見て（見ない人もいる）、一言二言しゃべっている若者たちがいることです。とても「会話」とは認められません。それでも意思疎通がなされているとすれば、よほどの会話の達人か、「見出し会話」だけで十分な会話であって、それ以上の中身には入りたくない人たちなのかもしれません。

さて、学園には三つの重要な会があります。卒業生の会である「実践桜会」、大学・短期大学部在校生の父母で構成する「後援会」、中学校・高等学校在校生の父母で構成する「父母の会」です。いずれの会も、親睦を深めながら学校を支援することが、設置目的です。我々学園関係者にとって、とてもありがたいことであり、心強いことです。

私は常日頃、学校というところは「在学生」「教職員・役員」「卒業生、在学生の父母」の三者が、まさに三位一体となっていなければ、学園の発展は望めないと考えています。学校の主役である学生・生徒が充実した生活を送ることができるよう、教職員・役員、卒業生・在学生の父母が条件や環境を整えてこそ、在学生の満足度も上がります。

理事長になって、これらの会の皆さんと初めてお会いした時は、私なりにかなり緊張しました。会が終わって家に帰っても、私の印象はどうだったのだろうかと心配もしましたが、持ち前の楽天的な個性によって不安を払拭して、次からは飾らず自分を出すように努めてきました。

私の第一印象はどうだったでしょうか。背が高くて声が大きいだけで、笑顔が特段に素晴らしいわけでもないと、本人は自覚しています。50歳後半くらいまでは、ガリガリ・モーレツサラリーマンだったので、良い第一印象を持たれたことは、あまりなかったと思います。さすがに60歳を超えてからはキツイという印象も薄れ、柔和な面が表に出てきたと言われるようになりました。はたして今はどうでしょうか。

まあ、そんな理事長ですが、他人の何倍も学園を愛しているとご理解いただき、これからも一緒に歩んで、この学園をもっともっと素晴らしい学園にしていきましょう。

（いはら　とおる）

Message

大学・短期大学部の教育改革

実践女子大学・短期大学部 学長
田島　眞

平成28年度も半ばを過ぎようとしていますが、学内はまだ騒ぎが続いております。何の騒ぎかというと、今年度の入学者が定員を大きく超過したのです。定員超過は功罪あって評価は難しいですが、学生に迷惑を決してかけないことが必須です。教員の臨時採用、施設設備の拡充などの対処を実行しています。

1．120周年記念事業校地整備計画の完成

1期の渋谷校地整備に引続いて行われておりました2期日野校地整備事業が、28年3月をもって終了いたしました。旧第3館と第2館を解体して第3館を新築いたしました。地上4階建て延床面積約2,500㎡の中規模の建物です。特徴は、1階エントランスホールに2階まで続く巨大な階段を設けたことです。ここでは学生が自由に発表をしたり、あるいは腰掛けて談笑することもできます。

また、新第3館と桜ホール（食堂）との間の空間は、プロムナードとして広場が整備されました。テーブルと椅子が配置され、昼休みに学生が談笑している様子は、郊外型キャンパスの効果的利用となっております。あらためて120周年記念事業へのご協力に感謝申し上げます。本年秋のホームカミングデーは日野で開催されますので、是非ご覧になっていただきたいと思います。

2．様々な教育改革

私が学長になってから様々な教育改革に取組んでまいりました。中でも力を入れているのは、教育方法の改善です。アクティブラーニング（能動型授業）の実施、卒業生満足度調査とそのカリキュラムへの反映、学生による授業評価とそれによる授業の改善の義務化などを実施しております。今後は、カリキュラムのナンバリング、学修ルーブリック（学修到達度の可視化）、学修ポートフォリオ（学修内容の可視化）の作成など、最新の教育体制を順次取り入れていきたいと考えております。何故、このように新しい学修施策を考えるのかというと、偏に卒業する学生の質の保証のためです。18歳人口の減少と、それに反する一部大学の入学定員の拡大により、大学入試の難易度が低下しております。本学でも従来以上に様々な学生を受け入れることとなります。そういった多様な学生も4年間あるいは2年間の教育を通じて一定の知力、学力、人間力を身につけさせ、自信を持って社会に送り出すことを大学として保証することです。このことが、本学に課せられた社会的責任であり、また、教育方針を明確に打ち出していくことで、入学者の確保にもつなげていきます。

3．三つのポリシーの策定

2.に関連して、昨年度には大学の三つのポリシーを立案し、教授会の承認を得ました。今年度中には、学部、学科のポリシーも策定いたします。三つのポリシーとは、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）です。ディプロマ・ポリシーは、卒業生の質保証です。本学ではどのような力を身に着けた学生を卒業させるかの保証です。カリキュラム・ポリシーとは、そのような教育を行うための学修計画です。4（2）年間にわたって、どのように授業のカリキュラムを組み立て、ディプロマ・ポリシーに適う学生を育てるかを保証するものです。アドミッション・ポリシーは、本学の受験者がカリキュラムを履修するために必要な能力を満たしているかを確認する方針です。これら三つのポリシーを通して、卒業生の質を保証するものです。文部科学省でも学校教育法施行規則を改正し、平成29年4月までに三つのポリシーを制定・公表することを大学に求めています。本学では、この方針よりも1年早く検討を実施してきました。

私が学長に就任してから3年が経ちました。その間、様々な教育改革を実施して参りました。三つのポリシーを策定したのもその一部に過ぎません。全教員にも改革精神が根付いてきたものと信じております。とくに短期大学部では改革委員会を組織し、全学で取り組んでおります。そのことが、今年の入学者増に貢献したものと信じております。卒業生の皆様にも、今後益々のご支援をお願い申し上げます。

（たじま　まこと）

Message

新理事長挨拶

一般社団法人
教育文化振興実践桜会　理事長
鈴掛 まゆみ

4月14日からの平成28年熊本地震より半年が過ぎようとしています。まだまだ余震が続いているとのこと、心穏やかではありません。被災された同窓生の皆様やご家族の方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。

会員の皆様に初めてご挨拶申し上げます。5月15日の実践桜会定時総会にて浦上淳子前理事長の後任として理事長を拝命し承認を受けました。

ご経験豊富な諸先輩方や各科会長さま、各支部長さまのご指導やご助言をあおぎながら「同窓生の絆」を大切にして、下田歌子先生が築いた実践女子学園と実践桜会のさらなる発展のために、何事にも精一杯取り組み、同窓生の輪を広げていきたいと思います。そのために、会員の皆様のお力をお借りできれば幸いです。

実践桜会は実践女子学園創立（1899年）から2年後（1901年）に下田歌子先生が初代理事長として発足し、今年で115年、私は17代目の理事長になります。卒業生は162,000を数えます。先輩達の築いた歴史と伝統を感じこれからも大切に引き継いでいくことの重みをしっかりと受けとめていきたいと思います。

現在正会員（年会費を納めている会員）は約6,000名で、住所登録されている会員は約65,000名です。長年言われ続けた課題として、これからどうしたら正会員を増やしていけるかということがあります。そのためには、各科会や各支部そして桜会会館利用者や在学生、奨学生等を通じて実践桜会の活動を大いに宣伝していくことが大切だと考えております。

さて実践桜会は代議員制度を導入して2年が経過し、平成29年度は新たな代議員選出をしなければなりません。会員の皆様にはこの「なよたけ情報版」に同封されている「代議員立候補届」にてご返送よろしくお願いいたします。その結果を受けて代議員選出管理委員会により新代議員が選出され、来年4月発行の「那与竹」にて新代議員氏名が公表されます。

先日、ある会員のご長男様から1通のメールが届きました。「母が先般亡くなり、遺品整理していましたら1947年卒業アルバムが出てきました。是非実践桜会で保存していただければ母も喜ぶでしょう。」と。ありがたく頂戴したい旨を返信し、後日、戦火を逃れた日々を辿るその卒業アルバムが届きました。感謝の想いとともに、実践桜会は会員のみならずそのご家族ともつながっていることを痛感いたしました。

私たち理事一同も、明日へつなげる責任を重く受け止め、努力をしていく所存です。これからも会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

（すずかけ　まゆみ）

新役員の紹介（平成28・29年度）

理事長		鈴掛 まゆみ（昭48大英）
総務部	常任理事	片山 久子（昭50短国）
	理事	大屋 恕子（昭37大食）
	理事	御園 整子（昭37高校）
	理事	益 佳子（昭48大英）
	理事	岡田 恵美（平4高校）
事業部	常任理事	久保 きみ子（昭43大食）
	理事	伊達 絹代（昭44大食）
	理事	藤本 美津子（昭43短英）
	理事	高橋 泰子（昭48大被）
財務部	常任理事	佐藤 順子（昭42高校）
	理事	福田壽美子（昭45短被）
文化部	常任理事	浅野 薫（昭61大被）
	理事	前川 照子（昭37高校）
	理事	尾崎 綠（昭49大国）
	理事	田原 久美子（昭61大被）
広報部	常任理事	木村 恵美子（昭62短英）
	理事	後藤 英子（昭48院食）
	理事	大和 惠子（昭46短国）
	理事	竹内 節子（昭55院国）
監事		金成 羊子（昭39短被）
監事		横田 紀代子（昭44短英）

＊カッコ内は（卒年 科）

平成28年度実践桜会定時総会報告

平成28年5月15日（日）代議員制を導入した第2回目の定時総会が、セルリアンタワー東急ホテルにて開催されました。代議員数179名、出席数88名、委任状72通で定足数を満たし、定款第22条により総会は成立し、議題が審議承認されました。

【議題】
1. 平成27年度事業報告の件
2. 平成27年度決算書承認の件
3. 公益目的支出計画実施報告承認の件
4. 監査報告
5. 平成28年度事業計画（案）及び予算（案）の件
6. 定款変更の件
7. 役員改選の件

総会後の懇親会では、卒業生の宝塚OG、初風緑さんとお仲間による歌とダンスの華やかなミニ・ライブショーが催され、楽しいひとときを過ごしました。

系列科会長、支部長、実践桜会役員の懇談会

総会、懇親会の後、科会長と国内外支部の支部長及び代理の方々のご出席を頂き、お顔合わせの懇談会が開催されました。桜会各部常任理事による事業説明や質疑応答が交わされ、総会で承認されたばかりの桜会新役員も参加いたしました。

幻の女性アメリカ大統領候補 ヴィクトリア・ウッドハル

実践女子大学文学部英文学科　主任・教授　稲垣 伸一

アメリカでは大統領選挙を控え、初の女性大統領誕生が現実味を帯びてきています。しかし、女性で大統領候補に指名されたのは今回のヒラリー・クリントンが初めてではないと聞いたらどうでしょう。多くの人が「えっ？」という反応を示すのではないでしょうか。

もちろん、正式にはクリントンがアメリカ初の女性大統領候補であることにまちがいありません。にもかかわらず彼女がアメリカ初ではないと言うなら、これには少し説明が必要な話となります。

それは今から140年以上前の1872年、南北戦争時の将軍で第18代大統領ユリシーズ・グラントが2期目の当選を果たした大統領選挙の時。この選挙で立候補したのが当時34歳のヴィクトリア・ウッドハル（1838-1927）という女性でした。

ヴィクトリア・ウッドハル
（30歳の時）

ウッドハルは同年5月、自ら結党した「平等権利党（イークォール・ライト・パーティ）」から大統領候補に指名され、アメリカ初の女性大統領候補となります。しかし、国レベルで女性参政権が認められていない時代に、その参政権を主張して女性が立候補するという矛盾。ウッドハルは正式な大統領候補として認められず、選挙当日は訳あってニューヨークの牢獄に拘留中、彼女に投じられた票数は記録にも残っていません。

では「幻の」女性大統領候補ヴィクトリア・ウッドハルとはどのような人物だったのでしょうか。

多彩な経歴と社会からのバッシング

ウッドハルがその生涯で付けられる肩書きは、株式ブローカー、雑誌編集者、共産主義者、スピリチュアリスト、フリー・ラヴ論者、女性解放運動家、等々。そして後半生では何と優生思想まで主張しました。この多彩さだけを考えても彼女の人生は波乱に満ちたものだったことが想像できます。実際、彼女は一時多くの人々から熱狂的な支持を得たものの、その急進的な主張や常軌を逸した行動のため社会からの執拗な非難に晒され続けました。

例えば、ウッドハルは、妹テネシーと共に幼い頃から透視能力を持ったとされ、両親はその能力を利用して透視による治療行為を行って生計を立てていました。そして密室で姉妹が行う治療には絶えず詐欺や売春の疑いがついて回りました。

一家が各地を転々とした後ニューヨークに移ることを決めたのは、スピリチュアリストとして霊感を持つウッドハルが、古代ギリシアの雄弁家デモステネスの「お告げ」を聞いたためでした。

ニューヨークに移ってまもなく、ウッドハル姉妹はおそらく女性初の株式ブローカーとして事務所を構えます。これを可能にしたのが、鉄道王コーネリアス・ヴァンダービルトからの援助です。75歳になるヴァンダービルトの経済的支援を得たのは、テネシーが彼に対して行ったメスメリズムによる治療がきっかけでした。老人相手とはいえ密室での治療の結果、多大な金銭的支援を得る、この事実だけで妙な噂が立つには十分でした。

このように姉妹の行動は、時に常軌を逸したものとして受け止められ、またある時には性的なニュアンスをもって社会から受け止められました。

男を御す女性株式ブローカーのウッドハル姉妹
（『ニューヨーク・イヴニング・テレグラム』1870年2月18日号）

姉妹のオフィス。男性の手がテネシーの太ももに！
（『ザ・デイズ・ドゥーイング』1870年2月26日号）

大統領候補に指名されたヴィクトリア・ウッドハル
（『ザ・デイズ・ドゥーイング』1872年6月1日号）

スピリチュアリストにして女性解放運動家

社会から常に厳しいまなざしを向けられたヴィクトリア・ウッドハルが、大統領候補に指名されたのは、多くのスピリチュアリストと女性解放運動家から支持を得たためでした。

スピリチュアリズムは南北戦争前の1848年、ニューヨーク州ロチェスター近郊で起こった心霊現象をきっかけにアメリカで大流行し、その流行は南北戦争後まで続きました。ウッドハルはスピリチュアリストの全国組織である「アメリカ・スピリチュアリスト協会」の会長に1871年と1872年の2回選出されています。この事実はスピリチュアリストの中でウッドハルの支持者がいかに多かったかを物語っています。

スピリチュアリズムでは、人間は死後、霊として天上の矛盾のない調和した世界に住むと信じます。スピリチュアリストは霊からメッセージを受け取り、霊界の調和した世界を下界である人間世界にも造ることを目指しました。その結果、アメリカのスピリチュアリストたちは現世に存在する社会矛盾の解消に努め、禁酒や奴隷制廃止、女性解放といった社会改革を指向することとなりました。

女性の地位向上を訴えたヴィクトリア・ウッドハルが多くのスピリチュアリストから支持を得たのは、単に霊の存在を信じるだけでなく社会改革を目指すというアメリカ・スピリチュアリズムの特徴があったからです。ウッドハルは大統領選挙への立候補宣言後、一貫して女性参政権を主張しました。1871年に行った講演で彼女は次のように述べています。

かつて黒人以外のすべての男性は投票していました。現在は黒人を含むすべての男性が投票します。その結果、人間の権利についてのすべての行動と議論は、投票権の行使、いわば100万人の黒人の投票権行使を保証するということで終わったのです。そしてこのことは同じ投票権が1,500万人の女性に対しては保証されないよう、一定の注意を払って行われたのです。（1872年1月10日ワシントンでの講演）

これは、南北戦争後の憲法修正によって参政権は黒人男性にも与えられたが、女性に対しては今なお与えられていないという現状への批判です。

人前で演説すること自体まだタブー視されていた時代にあって、ウッドハルは当時の常識から大きくはずれる行動に出ます。1871年1月11日、議会に乗り込み、下院司法委員会で女性参政権を求める請願書を朗読したのです。

この日は全国女性参政権協会総会が同じワシントンで予定されていました。ウッドハルの（今風に言えば）フェミニズム思想のため、女性解放運動の指導者エリザベス・キャディ・スタントンやスーザン・アンソニーたちは、彼女と共闘しようと考えました。

ウッドハルが下院で請願書を読み上げるというニュースを聞いて、女性運動家のリーダーであるスーザン・アンソニーたちは、自分たちの総会を午後まで延期して下院に駆けつけました。こうして1年あまりの短い間でしたが、ウッドハルと女性解放運動家との協調関係が始まりました。

過激な「フリー・ラヴ」思想

冒頭で述べたように、ウッドハルが立候補した1872年11月の大統領選挙当日、ウッドハルと妹テネシーは拘留の身でした。これは姉妹が発行する雑誌『ウッドハル＆クラフリンズ・ウィークリー』（以下、『ウィークリー』と略記）の11月2日号に掲載した記事が原因でした。

その記事とは、ニューヨークのブルックリンにあるプリマス教会の牧師ヘンリー・ウォード・ビーチャーと彼の友人の妻との不倫関係を暴露したものでした。ビーチャーは全国的に高名な牧師で、小説『アンクル・トムの小屋』の著者ハリエット・ビーチャー・ストウの実弟です。

ヘンリー・ウォード・ビーチャーの知名度から、この記事が世間の注目を集めたことは言うまでもありません。折悪しく猥褻文書を取り締まる検閲法として悪名高い「カムストック法」が同年6月に議会を通過したばかりで、この法律に名が冠せられたアンソニー・カムストックがウッドハルの書いた記事を目にしてしまったのです。ウッドハルとテネシーは猥褻文書を郵送した罪で逮捕､拘留されてしまいます。

ウッドハルは単なるゴシップ記事を読者に提供するためにこの記事を書いたのではありませんでした。彼女の目的は、ビーチャーに代表される男性が婚外で女性と関係を持っても暗黙裏にそれが許されてしまうという「性のダブル・スタンダード」を摘発するためでした。

さらにこの記事は、ビーチャーのスキャンダルを好例として、結婚制度が機能しなくなっていることを主張する彼女の急進的な思想を表明していました。彼女はこのスキャンダル記事でこう述べています。

下院司法委員会で女性参政権を要求するウッドハル（『フランク・レズリーズ・イラストレイテッド・ウィークリー』1871年2月4日号）

私は結婚問題についての社会革命を指揮し、ある意味ではそれを導くことに従事しています。互いを一生愛し、他のすべての愛や情欲の満足に先行する契りあるいは約束として、この制度［結婚制度］が有用である時代ははもはや過ぎ去ってしまったということについて、私は強い確信を持っています。（『ウィークリー』1872年11月2日号）

こうした結婚制度不要論は「フリー・ラヴ」思想とされる危険を孕んでいました。「フリー・ラヴ」という言葉は放縦な男女関係を連想させ、ある意見にこのレッテルが貼られると一気に一般の人々の支持を失うことになります。事実、スタントンやアンソニーたち女性解放運動家がウッドハルと袂を分かったのが、彼女が持つフリー・ラヴ思想の危険を察知したためでした。

ヴィクトリア・ウッドハルはこうした人々の反応に怯むどころか、自分が「フリー・ラヴァー」であることを公言します。

そうです、私はフリー・ラヴァーです！愛したい人を愛し、可能な限り長くも短くも愛し、そうしたければ毎日でも愛する人を換えることができる奪うことのできない、本質的で、生まれながらの権利が私にはあるのです。（1871年11月ニューヨークでの講演）

いかにも性的な放縦さを認めるかのようなこの発言は世間からの批判を招きました。そして雑誌『ハーパーズ・ウィークリー』にウッドハルは「サタン夫人」として風刺画と共にその急進性が「悪魔」的に紹介されました。

「サタン夫人」として描かれたウッドハル。手には「フリー・ラヴ」の文字が。（『ハーパーズ・ウィークリー』1872年2月17日号）

「ガラスの天井」―現代と比較して

話を現代に戻して、今年のアメリカ大統領選挙。7月26日民主党全国大会でヒラリー・クリントンが大統領候補に指名され、「『ガラスの天井』に最も大きなひびを入れた」と語りました。

「ガラスの天井」とは、男女の社会的不平等は否定されるべきと考える社会にあってもなお、女性のキャリアに立ちはだかる見えない障壁の喩えです。女性が大統領になることは法律上何の問題もないはずなのに、これまで「何か」がそれを阻んできました。クリントンが今まさにその「ガラスの天井」を突き破ろうとしているということでしょう。

それに対して19世紀のウッドハル。確かに当時のジェンダー規範からすれば、彼女の行動は突飛で、思想は急進的でした。しかし、彼女が主張した女性参政権は1920年に憲法で保証され、現在では当然の権利として女性に認められています。

現在「ガラスの天井」を突き破ろうとしているヒラリー・クリントンに対して、19世紀に生きたヴィクトリア・ウッドハルは、はっきりと眼に見えて上から女性を押しつけていた天井を破ろうとしていたのだと思います。彼女にとって、その天井を突き破った先に見えてくるのが女性参政権であり、性のダブル・スタンダード解消だったのでしょう。

ウッドハルがスピリチュアリストとして生前信じたように、今死後の霊として天上の調和した世界に住んでいるなら、彼女は今年のアメリカ大統領選挙をどう見ているのでしょうか。そんなことを想像すると、ドナルド・トランプの過激発言についてとはまったく別の観点から、間近に迫ったアメリカ大統領選挙を考えることができるような気がします。

（いながき　しんいち）

輝くひと

バラ園を公開して

二宮 葉子
（昭和37年／短大英文卒）

一昨年実践女子短期大学の同窓会がありましてたまたま出席したのですが、その時にJRのジパング倶楽部の冊子に新潟県の豪農の館を訪ねるという企画がのっていて我が家もその中の一軒でしたので皆様にお見せしたところ、昨年4人の同級生がバラを見に来て下さいました。ご案内した部屋に実践女学校の創始者の下田歌子先生の額がかけてありましたので皆様驚かれました。私は義父から下田歌子先生の額とか色紙など見せてもらっていたのですが、あまり気にもせず生きてきました。いらした方達の母校に対する愛情を感じて私の無関心さが恥ずかしかったです。

祖父の備忘録によりますと下田歌子先生は明治30年ごろに愛国婦人会設立の運動にここに来られた時に何点か書いて下さったようです。実践の同級生が我家に来られてお話が出来たこと母校に対するお気持ちを知る事が出来てとても良かったと思います。五十年以上も経て実践女学校を再認識できてありがとうございました。

次は私がバラ園を作った経緯を書いてみようと思います。

私達夫婦が日本庭園バラ園を公開してから今年で11年目になります。思い起こしますと最初のきっかけは主人の『公開してみよう』という言葉でした。気楽な気持ちでしたので、五月中旬から六月中旬位までの1ヶ月間だけで土曜日曜は休みにして雨が降れば休園にしていました。しかし土曜日曜しか行けないという苦情を沢山いただいたので今では休日なしの1ヶ月間公開になっています。そしてこの1ヶ月間のために秋の初めからの草花の種まき、苗のポット植え、バラの剪定・誘引・冬の寒肥やり、石灰硫黄剤の消毒。春には草花の庭への植え込み。宿根草の株分け等々、休む暇もなく動いています。またやればやるほど次々と課題がでてきますので、これで完成という事はありませんね。ただ最初の状態から見ていますと、この十年少しずつですが確実に進化しているのは実感しています。

最初の年はアルバイトの人を三人頼んでいましたが今は十数人のスタッフがいて、自分達で全て考えて運営してくれます。本当にありがたいことです。幸いにも今年も1万1千人以上の人々が来場してくださいました。多分来られる人達にとってバラ園だけでなく日本庭園を見ることも大きな魅力になっていると思います。

二宮家は戦前は大地主として栄えました。地主としての収入だけでなく有価証券にも力をいれていましたので戦後の農地解放で没落するのをまぬがれました。規模は縮小しましたが、今でも当時の面影を残しており、敷地面積は三千坪余りで日本庭園は弁天潟という八千坪ほどの池を借景として作られています。この日本庭園を見たくて毎年遠方から来られる方々もいらっしゃいます。私がバラ園としている場所は地主時代に使用人として働いていた人達を含め家族の洗濯物の干場だったり、使用人達の寝泊まりしていた建物の跡地等です。今ではバラが500株以上250種以上あります。宿根草はクレマチス等華やかなバラ園となっています。主人の転勤で20年ほど東京にいましたが子供達の独立後聖籠町に帰ってきました。

最初はあまりすることもなく義母が花を植えて楽しんでいるのを見て私はバラでも植えてみようかという程度でした。たまたま義母が購読していた婦人雑誌を見ていましたらイギリス西部のコッツウォルズ地方のイングリッシュガーデン特集だったのです。今から二十数年前です。あまりの美しさに絶対イギリスに行こうとその時にきめました。当時娘がフランスのパリに住んでいましたので、友人二人を誘ってパリに拠点をおき、フランス、イタリア、イギリスと周遊しました。

イギリスではオックスフォードでレンタカーを借りコッツウォルズ地方をまわりました。期待通り素晴らしい地方ですっかり感激して鼓舞され、洗脳されて帰国しました。それからは花園作りに熱中して今までやってきています。

ただ何もかも自分の思い通りとはいきません。義父との葛藤もありました。義父は家を守ることに生涯をかけていて、変化は嫌いましたので、私が勝手に（裏庭といっても）敷地の中を変えるのは嫌だったのです。私にとって邪魔な木も家の風格を保つのに大切だと言って切らせてはくれませんでした。後年になって切ってもいいと言ってくれましたが。

また作家の下重暁子さんが収集しています藍木綿の筒書展を友人の勧めで我が家で開きたいとお願いした時も他人を家に入れたくないと猛反対されました。この時は主人と二人で説得して、また聖籠町にも協力してもらい共催ということで開催しました。1週間でしたが大勢の人たちが楽しんで下さったと思います。ただ義父はその後しばらく機嫌が悪かったのも事実です。義父にとって大切な家を守る事が現状維持ということだったのかもしれませんが、私たちはこのままではいつか行き詰まるのではないかという危機感があり、この家を存続させたいという気持ちはやり方の違いはあれ同じだと思います。

私たちはどういう方向に向かったらよいか試行錯誤の状態ですが今はまずこの生活を一生懸命続けていけばまた見えてくるものがあるのではないかと考えています。

（にのみや　ようこ）

［プロフィール］
新潟県新発田市出身
日本交通公社に勤務後結婚

特別寄稿

万葉集の「おもしろさ」を伝える

実践女子大学文学部国文学科・教授　池田 三枝子

国文学を志すに至ったきっかけ――紫式部の逸話

そもそも国文学を学びたいと思うようになったきっかけは、小学校2年生の時に読んだ紫式部の伝記でした。その頃は高度経済成長期だったせいか、図書館や書店の児童書の棚には社会に貢献した偉人たちの一生を描く偉人伝が数多く並べられていました。ワシントン、リンカーン、ナイチンゲール、日本人では二宮尊徳、野口英世、湯川秀樹……等々。その中の一つに『源氏物語』の作者である紫式部の伝記がありました。

私が読んだ伝記には、紫式部の少女時代の逸話として、父が兄に漢文の講義をしていた時、傍らで聞いていただけの紫式部のほうが兄よりもすらすら読めたので、父が「この子が男の子であったなら」と嘆いたという話が載っていました。そして、父にそう言われた紫式部は「いや、私は女にしか出来ないことをする」と心の中で決意して、大人になってから『源氏物語』を書いたのだと記されていたのです。

この逸話は大変有名で『紫式部日記』に拠るものですが、実は「女にしか出来ないことをする」と決意して『源氏物語』を書いたというくだりは『紫式部日記』には記されてはいません。児童書の作者の創作だったのですが、そうとは知らずに8歳だった私はこのくだりにいたく感銘して、「自分も女にしか出来ないことをする！」と思い定め、紫式部と同様に文学の道に進もうと考えるようになりました。

短詩形文学との出会い――山頭火とアララギ派

「紫式部と同様に」といっても自分に創作の才能がないことはすぐに分かったので、高校時代には古典文学の研究者をめざすようになっていました。当初は『源氏物語』を学ぶつもりで与謝野晶子や円地文子の現代語訳を読んだりもしていたのですが、2つのきっかけから次第に短詩形文学に興味の対象が移って行きました。

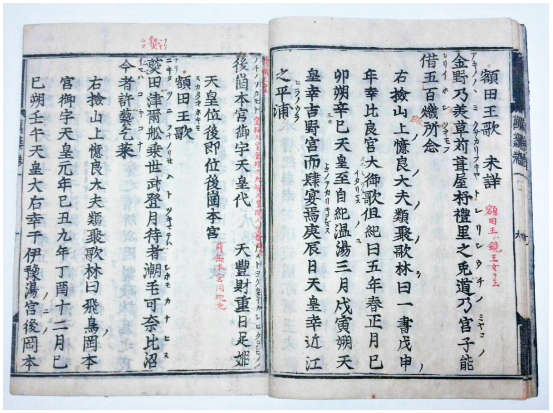
きっかけの1つ目は自由律俳句の種田山頭火です。当時、ミッションスクールに通っていたため、キリスト教をテーマとする文学作品を好んで読んでいたのですが、旧約聖書に取材した『エホバの顔をさけて』という丸谷才一の作品を高校の図書室で手に取ってから、丸谷才一の著作を読むようになりました。そして種田山頭火をキーパーソンとする『横しぐれ』という作品を通して、自由律俳句を知ったのです。それまでは定型のある俳句や短歌に堅苦しさを感じていたのですが、自由律俳句は定型を度外視するもので、短詩形文学を敬遠していた私にとって理解しやすいものでした。

きっかけの2つ目はアララギ派の歌人である近藤芳美の「青春の碑」です。国語の教科書に掲載されていたその文章は、アララギ派の短歌だけでなく、歌人たちの人間関係をも生き生きと描いていました。

「法隆寺」国文学科研修旅行（奈良県・法隆寺にて撮影）

「出雲大社」国文学科研修旅行（島根県・出雲大社にて撮影）

「古代衣装」奈良時代の女性の衣装（作成して教材としているもの）



「万葉集の版本」江戸時代の万葉集の版本

俳句と短歌。ジャンルは違えどいずれも短詩形文学です。そのルーツを知りたいと思って和歌文学にたどり着き、わが国最古の歌集である『万葉集』までさかのぼり、高校を卒業する頃には『万葉集』を研究対象と定めていました。

万葉集研究の意義――「おもしろさ」を発見して伝える

大学・大学院では上代文学のゼミに所属し、以来、『万葉集』の研究を続けています。

ただし、今までに2度、古典文学の研究を続けることに疑問を感じたことがあります。

最初は大学1年生の春休みにスキーで大怪我をして緊急入院した時です。整形外科の病床が塞がっていたため外科病棟に入院したのですが。隣のベッドの患者さんがかなり進行した末期ガンだったのです。痛みのため昼間は呻き声を上げ、夜はモルヒネを投与されて眠るのですが、朦朧として挿入されている管を無理に引き抜いてしまい、翌朝症状が悪化するという状態でした。怪我をして動けない私は「この苦しみを救えるのは医師と看護師だけ」「古典文学研究は役に立たない」という思いで見つめているしかありませんでした。

もっともその時はまだ19歳だったこともあり、退院してしばらく経つと、そのような疑念も忘れてしまったのですが、それから10数年後に再び思い出すことになります。それが平成7年の阪神・淡路大震災の時です。「被災した方々のために、古典文学研究は役立つことがあるのだろうか」と1年以上考え続けました。

そうした中で「肉親を亡くして悲しんでいても、お笑い番組やマンガを見てふと心なごむことがある」という新聞記事を目にしました。お笑いやマンガは分かりやすいので解説なしで楽しむことができます。一方、古典文学は当時の習俗・思想や時代背景等の知識がないと簡単に理解することができません。本当はおもしろいからこそ、長年愛され続けて古典となったはずなのに、知識がないとそれが分かりにくいのです。だとすれば、私が古典文学を研究し、私というフィルターを通して多くの人に古典文学の「おもしろさ」を知ってもらえれば、何かの場面で役立ててもらえるかもしれないと思い至りました。

『万葉集』により身体の苦痛が軽減するということはないでしょう。しかし、万葉歌を読んで感動することにより、精神の苦痛が和らいだり、精神が高揚したり温もったりすることはきっとあると思います。ですから、大学や生涯学習センターで講義する際、私の使命は、私の発見した「おもしろさ」を伝えることだと考えています。（いけだ　みえこ）

慶応義塾大学大学院修了。
現在、実践女子大学文学部国文学科教授。
専門は『万葉集』を中心とする日本の上代文学（奈良時代以前の文学）。

特別寄稿

ファッションビジネス教育に至るまで

大学入学から30年と現在

実践女子大学生活科学部生活環境学科　准教授　大川 知子

2013年の着任から3年が経過しました。着任の3週間後に予てから療養中の父が亡くなり、新しい環境に慣れる以前に、公私をやり繰りしての自転車操業。晩学故、齢十分にして踏み出した新たな一歩は、先生方や助教、助手の方々―、特に大学のシステムはそれまでと異なる点が多くあり、事務方の皆様にも随分と支えて頂きました。

子供の頃から父の仕事で2年おきに転校した為、実践女子大学に入学して初めて同じ学校に入学し、卒業するという経験をしました。大学の門をくぐったのは1986年―、今から30年も前のことです。女子大を志望したのは、子供の頃に見た一枚の写真がきっかけでした。

母方の曽祖母、武藤志つ子（本名・じつ）は東京女子師範学校の一期生で、卒業後は福岡女子師範学校で教鞭を執りました。1917年に『実用割烹教科書』を出版。生涯に3冊ほど上梓していますが、調理において匙を使った分量測定の重要性を教科書を通じて日本で初めて指摘しました。彼女の卒業写真には当時既に外国人教員が写って居り、袴姿の女学生たちは凛として、極めて単純に、子供ながらに憧れの気持ちを抱いたのが、その後の進路選択にまで影響を与えました。

大学では被服学科に在籍し、入学したからには何かひとつでいいから資格を取ろう―、と1級衣料管理士の取得を目指し、また英語研究会（ESS）に所属し、4年間活動しました。大学卒業後の20代はファッション産業界での実務に従事すると同時に、その間、仏国にも留学しました。

共著書

キャリアの転機

キャリアの大きな転機は1997年、経済産業省生活産業局繊維課の管轄下にある（一財）ファッション産業人材育成機構（IFI）に籍を置いたことです。日本で初めての本格的なファッションビジネス教育機関が誕生するにあたり職員募集―、という新聞広告を見、紆余曲折ばかりの20代でしたが、それまでの経験を活かせるのではないかと応募し、採用頂きました。

IFIが他のファッション教育機関と異なる点は大きくふたつ有り、第一に生産段階に応じて細分化されているファッション産業を、包括的に捉える視点を醸成すること。つまり小売の立場であっても生産現場のことをきちんと理解し、他方、モノ作りの現場にあっても最終製品をイメージし、売場での展開まで理解できる―、そのようなモノの見方ができるスペシャリストとリーダーの育成。第二に、徹底した現場教育です。

16年在籍しましたが、この間産業界の実に様々な方々に出会い、また全国各地の産地も訪問させて頂き、年に二回、米国と欧州の研修企画も担当しました。講師の中にはアシックスの創業者である故・鬼塚喜八郎氏、イトーヨーカ堂の伊藤雅俊氏、ユニクロの柳井正氏などそうそうたる方々もおいでになり、そういった数々の出会いを通し、皆、決して成功体験に甘んじることなく、いくつになっても学ぶ姿勢を失わないのだ―、と自らを省み、再び学ぶ決意をしました。

学びの再開

2003年、東京都立大学（現・首都大学東京）が社会人向けに都庁にビジネススクールを開講する―、その上、仏国を専門とする先生も居られる―、と知り、受験しました。研究内容は、自分も含める日本人が欧米ファッションへのある種の畏敬の念を拭えないのは、クリエーションの議論ではなく、その企業経営そのものの在り方にあるのではないか―、との仮説を立て、長く続く企業の、特に創業時の様相を一次資料を元に紐解きました。それが1946年に創業し、現在なお存続している**Christian Dior**社です。

修士論文は無事修めたものの、大変な思いをして持ち帰ったコピー資料全てを読み解くことは出来ず、そのまま博士課程に進みました。途中仕事との両立が難しく、休学余儀ない時期もありましたが、6年掛かってようやく終えました。その間、国際学会で発表した内容は***La Mode des 60's***という本で仏国から出版され、その時出会った米国人研究者の方と共著でペンシルバニア大学から***Producing Fashion***を出版する機会を得ました。***Producing Fashion***は全米大学出版会の“**The Best of the Best**”賞の一冊に選ばれ、現在は電子書籍でも販売されています。

現在の研究室の活動

担当させて頂いているファッションビジネス研究室の在籍学生は、3年半でのべ47名。座学で学んだことを元に、企業訪問や店舗視察などを通して、実際に自分たちの五感を使って検証する活動を行っています。一昨年のゼミ合宿では、日本が世界に誇るデニム生地メーカーのカイハラ㈱（広島県福山市）を訪問し、原料から織物になる工程を見学。また、㈱ユナイテッドアローズの新業態であるアンルートのクリエイティブ・ディレクターに、ブランドができるまでのプロセスについてお話し頂く機会を得ました。

カイハラ工場見学

ルミネ

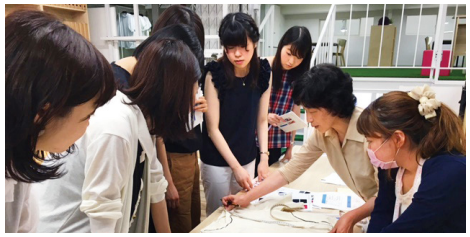
その他、毎年産学プロジェクトを実施しており、過去3年は大学至近の商業施設であるルミネ立川店との取り組みを行っています。先方から毎年評価頂き、今年度も継続が決定しています。今年度はその他に、東京・墨田区の企業のご協力を得、カットソー製作にも取り組んでいます。

今は何でもインターネットから情報が得られる時代ですが、ネット上の情報は多かれ少なかれ皆同じモノを享受出来、それを我が物顔で語っても―、また昨今、学生のレポートなどにも散見されますが、情報を切り張りして提示しても―、そこには何の感動もありません。自分が実際に手足を使って実感しながら経験したこと以外に、尊いものは無く、そういった他者とは異なる自分独自の経験の積み重ねこそが、学生の方たちの成長に繋がると考えています。

一方、自分自身の課題もあります。日々刷新されるファッションビジネスをどのように学生の方たちに伝え、実社会で役立つ考え方や知識として学んで貰えるのか。また、まだまだ新しい分野の為、今後自分がどのように学術的貢献を積み重ねていけるのか―、という点です。この研究室の社会的意義と魅力度を高め、次の方にこのバトンを渡すことが自分に課されていることだと考えています。　（おおかわ　ともこ）

長崎県生まれ。本学を卒業。ファッション産業界での仕事を経、（一財）ファッション産業人材育成機構で、将来のファッションビジネスにおけるスペシャリストの育成に従事。その傍ら、首都大学東京で博士号を取得。専門は経営史。2013年より現職。

eN ROUTE訪問



小倉メリヤス製造所

特別寄稿

研究に至るきっかけと現在の活動

実践女子大学生活科学部食生活科学科　専任講師　森川　希

子どもの頃は、あまり活発なほうではなく、大勢で遊ぶよりは一人で好きなことに熱中するタイプでした。実践との出会いは、小学校六年生の秋に、実践女子学園中学校・高等学校のときわ祭を見に行ったことがきっかけでした。地元の校風に馴染めず、母の勧めで私立への進学を決めて1年余りの時期でした。実践の先輩方の優しさや和やかで自由な校風はすぐに私を惹きつけましたが、特に中学器楽部の演奏が魅力的で、自分もあの中に入りたいと思い、受験を決めました。幸いにも、母が実践の教育方針「堅実にして質素、しかも品格ある女性の育成」に共感しており、難なく志望校が定まりました。入学してからはもちろん器楽部に入りました。学友にも恵まれ、6年間のびのびとした環境の中で充実した日々を過ごしました。この間、家庭環境の影響で、様々な機種のワープロを使いこなし、パソコンやインターネットも同級生の中ではいち早く使用していました。学校のノートも、これらを駆使して独自の方法でまとめており、試験前はそれを印刷したものを通学電車の中で読み返すだけで足りました。なるべく勉強時間を短縮しようという横着な気持ちからでしたが、気づけば作業のそのものが趣味にもなっていました。「既存ツールを最大限活用し効率的に目標を達成する方法を探る」という、研究に通じる信念のようなものがすでにあったのかもしれません。

高校卒業時。城礼子先生、同級生の荒木紀美さんと

実践女子学園がちょうど創立100周年を迎える年に、生活科学部食生活科学科管理栄養士専攻に進学しました。在学中は、せっかく大学に来たのだからと、専門科目に留まらず人文系の科目も積極的に履修し、放課後は軽音楽部の活動にも力を注いでいました。職業としての管理栄養士への志向は強くなかったという意味では、模範的な学生ではなかったかもしれません。それでも、日々の細やかな努力が実り、現・田島眞学長が担任だった3年次に、下田奨学金の給付を受けられたことは、現在も大変有難く記憶しております。また、その頃には、専門科目の実験・実習を通して、研究への興味が高まっていました。そして、当たり前のように、大学院に進学することを考え始めました。さて、女子大を出て、さらに大学院まで進学するとなると、その後の就職や結婚の心配などをされる親御さんも多いのではないかと思います。しかし当時の私は、母からも当然理解を得られると思っていましたし、実際、微塵も反対されることはなく現在に至っております。これまでの実践との長い関わりの背景には、常に私の意志を尊重してくれた母の存在があるといって良いでしょう。唯一、進学にあたっては資金の問題がありました。これについては、卒論をご指導いただいた青木洋佑教授から、副手になることを勧められ、まずは3年間、研究もできる仕事をしてから進学することにしました。

当時は、主にマウスを使い、食品成分の免疫機能に対する影響を調べていました。その中で、企業との共同研究として、特定保健用食品の申請のための食品の臨床試験を行なったことがありました。実習準備や事務作業の合間に、被験者である学生さんとの連絡調整、調査票や生体資料の回収などに奔走しました。当時の自分のキャパシティを上回る状況でしたが、人間を対象とした研究に初めて関与したことで、人々の食生活により近い領域の研究に関心が向く契機ともなりました。

また、青木教授の計らいで、国際学会で研究発表をさせていただけたことも、大きな経験になりました。

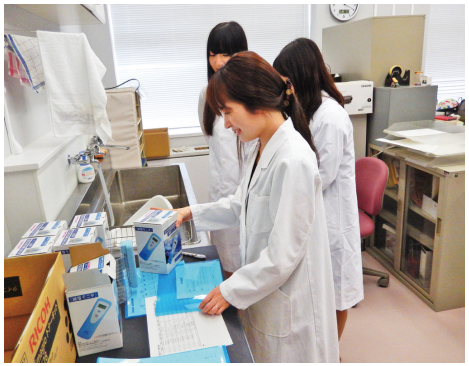
青木洋佑先生と、国際学会（St.Louis）にて

副手の任期を終えてからは、横浜市立大学大学院医学研究科情報システム予防医学（現疫学・公衆衛生学）部門へ進学しました。研究室では、生活習慣病の予防に関わるデバイスの開発や介入研究を行っており、医師、薬剤師、管理栄養士のほか工学系出身者など多様な専門性の学生が在籍していました。その中で、管理栄養士としてできることを模索していきました。主に取り組んだのは、肥満者への減量指導や、高血圧の予防・改善のための減塩指導のツールに関する研究でした。周知のように本邦の死因の上位には循環器疾患があり、その予防対策のひとつに減塩があげられています。食習慣を変えることは容易ではありませんが、食塩については、そもそも対象者が自分の食塩摂取量を把握しづらいことも問題の一つと考えました。当時の研究室ではすでに、夜間尿から24時間尿中塩分排泄量を推定する簡易測定機器を開発していたことから、それを多くの人が使えるツールとなり得るかという観点で検証していきました。

減塩に関する研究は、現在の担当授業や卒業研究にも引き継がれています。公衆栄養学の学内実習（管理栄養士専攻）では、昨年から新たに24時間蓄尿による食塩摂取量の測定実習を取り入れています。栄養食事指導のための食事調査は、食べた物を記録する方法や、聞き取り調査によって行なうのが一般的ですが、いずれの方法でも、調味料や加工品に含まれる食塩摂取量を正確に把握することは困難です。そこで、摂取した食塩の約9割が尿中に排泄されることを利用して、尿の分析をします。専用の容器に、丸一日分の尿を採ってきてもらう必要があるため、なかなか大変ですが、学生からは「自分が思っていたより塩分をとっていた」「正確に調査することの大変さがわかった」といった声が聞かれます。

専任教員として着任して、早くも5年目になりました。

第1期ゼミ生と謝恩会にて



現在のゼミの様子

途中、産休を取得した際には、食生活科学科の先生方に多大な支援といただいたばかりでなく、授業を受けていた学生からもお祝いのメッセージカードをいただくなど、実践の温かな校風に助けられました。さらに、娘が保育園に入園した当初の担任の先生が、実践の卒業生だったという奇跡的なご縁もありました。

教育、研究、育児と目まぐるしい毎日ですが、長い歴史の中で作り上げられてきた実践の教員と学生あるいは卒業生と地域の関係を次世代に繋いでいくことも大切な任務のひとつと考え、日々を大切に過ごしています。

（もりかわ　のぞみ）

【プロフィール】
実践女子学園中学校・高等学校から実践女子大学生活科学部食生活科学科管理栄養士専攻。同大学副手を経て、横浜市立大学大学院医学研究科博士課程修了（学位：博士（医学））。
実践女子大学生活科学部食生活科学科非常勤講師を経て、平成24年より専任講師（公衆栄養学担当）。
横浜市立大学医学部社会予防医学教室客員研究員。

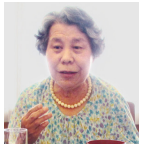
地域交流レポート

今年は支部創設20周年を迎え、『実践桜会 埼玉支部20年のあゆみ』という活動年表を作成された埼玉支部に伺いました。

熱波が関東を覆っている8月8日、浦和の伊勢丹バンケットルームに於いて、

- 石戸 昭子（昭和20年／専技卒）
- 野口 正江（昭和25年／高校卒）
- 鈴木 克子（昭和29年／大家卒）
- 小河原 俊子（昭和32年／大家卒）
- 武重 雪子（昭和34年／大食卒）
- 本間 靖子（昭和34年／大食卒）
- 長峯 順子（昭和36年／大食卒）
- 四家 充子（昭和41年／大食卒）

8名の支部の役員・会員の皆様にお目にかかりました。


小河原支部長

当支部は、小河原支部長が支部の立ち上げから現在に至るまで会の中心として熱心に御活動されています。

支部長の小河原俊子さんは、埼玉県本庄のご出身で本庄高等学校を卒業後、実践女子大学家政科に入学。昭和32年に卒業され、埼玉県の高校の家庭科の教師を長年務められました。また、県の教育センターで教員を指導され、実践の大学院の修士課程も修了されています。

平成7年4月に実践同窓の15名の教師の方々によって、小河原さんの退職を祝う会が開かれました。その際に埼玉同窓の会を持ちたいという話しが出て来ました。

更に同年6月、後年実践女子大学で教鞭をとられた埼玉県桶川市出身の故辻村みちよ博士（カテキンの発見・タンニンの研究をされた日本初の農学博士）の27回忌を浦和延命寺にて営んだ際、その機運が高まりました。

その後、辻村研究室の曽根原直子さん達9名で発起人の会立ち上げ・名簿の作成などの準備を経て、平成9年6月に第一回総会が開催され、埼玉支部の誕生となりました。

小河原支部長に支部活動を長年続けてこられた「その原動力は?」と伺ったところ「実践への愛です」と明解に一言。

お集まりの役員・会員の方々も「支部長の熱意と包容力に魅かれて続けています。」と口ぐちにおっしゃいます。

今一つその意味が掴めないままお話を伺っているうちに、お集まりの皆様の実践で過ごされた『時代』というものを感じるようになってきました。

■昭和20年代

石戸さん（昭和20年卒）は実践の技芸科を出られて教職に就かれました。野口さん（昭和25年卒）は新制実践女子高等学校の第一回の卒業生であり、その後学芸大学を出られて小・中学校の教師の道に進まれました。鈴木さん（昭和29年卒）は「家庭科の先生になるのなら実践」と進学の折り先生に勧められて入学され、後に栄養士の道に進まれました。このように皆さん高い目的意識を持って学生生活を送られていました。

想い出話を伺う中で、石戸さんからは、「技芸科では［早縫い］があって針に糸を通す時間も惜しむような厳しい授業でした。通学時間すらもったいなく感じて寮に入りたいと思った。」とのこと。更に石戸さんは、入学1時間目に坂寄美都子先生（実践女学校の留学生部の舎監・評議員）から、「最高学府を出たものは、稲の如く実れば実るほど首を垂れなければならない。慢心するなかれ」との言葉をいただいたそうです。その言葉は今も心に生きているとおっしゃいました。

石戸さん

野口さん

鈴木さん

また、鈴木さんからは「学債」という言葉が出て来ました。入学時、「学債」に1万円払ったそうです。集められた「学債」で校舎の整備・暖房設備の設置が行われました。そして在学中に「学債」が返還された際、お父様が「実践は真面目な学校だね」と感心されたそうです。

戦後の混乱がまだまだ色濃い時代、学校も復興の最中の厳しい状況で先輩方の勉学に対する気概を感じさせて頂きました。

■昭和30年代

本間さん（昭和34年卒）は新潟県から姉妹それぞれ実践に入学されて、ご本人は常磐寮で過ごされました。四家さん（昭和41年卒）は栃木県から母娘2代にわたり実践に通われました。武重さん（昭和34年卒）・長峯さん（昭和36年卒）も皆さん、実践に入学されて大切な青春の時間を過ごされました。そして、やはり教職に就かれる方が多くいらっしゃいました。

高度成長期に入ったとはいえ、女性が大学を出て自立する事はまだまだ一般的な事ではなく、『大学出の女は嫁入りの条件が悪くなる』などといった風潮すらありました。そのような中、堅実な校風の実践を選んで地方から進学をされた方々は、ご本人のご努力に加えてご家族の理解と言った教育的環境に恵まれておられたのであろうとも思われます。

武重さん

本間さん

長峯さん

四家さん

年代・環境の違いはあれ、お集まりの皆さんは芯の強さと真面目さに加えて、細やかな心遣いをお持ちであると感じました。これが、実践らしさ、質素堅実な校風というものかしらと温かな心持になりました。

さて、小河原支部長は、埼玉支部を維持運営していくために総会のほかに3本の柱を考えました。

（1）総会を通じて、会員に《実践》を身近に感じてもらい、より多くの参加者が集うように実践に関係する講師の方々を招いて、魅力的な講演会を行う。
（2）地元埼玉の歴史・文化を理解し、会員相互の交流を深めるための「彩の国めぐり」を行う。
（3）実技研修と言って、会員・スタッフのタレントを生かした講習会を通して会員の集まる場を提供する。

特筆すべきは、総会には必ず実践女子大学・同短期大学部の学長にご参加いただき、実践の"今"をお話して頂いていることです。それは、卒業生として母校の状況を知る上で学長のお話を伺うのが一番とのお考えからです。加えて、入試センター部長にも参加して頂き、母校の現状をより具体的に語って頂いています。（小河原支部長を始めとして教職に関わる会員の方も多く、進路指導などの観点からも、現状の把握が大切と考えておられます。）

（1）講演会活動

分銅惇作元学長	「宮沢賢治の精神と文化」
寺出浩司教授	「サザエさんの家庭と生活考」
飯塚幸子元学長	「下田歌子の教育理念」
百瀬洋夫教授	「日本の酒・世界の酒―ワインを中心として―」
平原日出夫教授	「向田邦子と現代家族―父のわび状、あ・うん、家族熱―をめぐって」
須賀恭子教授	「学生相談センターをとおしてみた親のありかた」
田島眞学長	「健やかに過ごせる食生活」 「知って得する食品の表示」
影山輝國教授	「中国の日本の狭間で －秋瑾と下田歌子－」
大久保洋子教授	「江戸っ子に学ぶ食と生活の知恵：江戸のファストフード・現代のスローフード」
湯浅茂雄 実践女子大学学長	「下田歌子に学ぶ」
栗原敦教授	「生き続ける賢治 ―宮澤清六さんのことばから」
影山輝國教授	「論語と宥座の器」

といった実践の教授の方々が講師を務められ、その内容も文学・食物学・生活科学などと多岐にわたっており、参加された会員の皆様は貴重な時間を持たれている事と思います。
更に、

鳥塚恵和男氏	「論語の使徒 －青淵渋沢栄一翁に学ぶ－」
湯原美代子氏	「下田歌子と源氏物語」
観世流能楽師 小島英明氏	「能の世界へようこそ」「能楽のすすめ」（羽衣編）
元桶川南小学校校長 五井丕氏	「不可能の扉を開いた人 －辻村みちよ博士の生涯」
鈴木忍氏	「彩の国の偉人 荻野吟子」
長谷川典明氏	「彩の国の偉人 －塙保己一と群書類従」

など、多方面の講師の方々を迎えた郷土に深くかかわった講演会や文化的講演会も開催されています。

（2）「彩の国めぐり」

小江戸「川越」・秩父の夜祭り・狭山茶めぐり・平林寺・世界遺産富岡製糸場・秩父七草寺めぐりと言った県内の名所旧跡、また、塙保己一・渋沢栄一翁・新島襄と言った偉人の縁の地を訪ねて、地元の歴史・文化を知る機会としています。

しかしながら、近年は「彩の国めぐり」も参加者の減少に頭を悩ませているそうです。

（3）実技研修

上田さん

第一回目は平成12年に技芸科ご出身の石戸さんの「手編み講習会」が開かれました。

また、国文科ご出身の上田理子さんによる「変体かなについて」や短歌の作り方の講習会、津田昭子さんによる「楽しいお菓子作り」、余地つる子さんの「絵手紙教室」と、会員・スタッフの才能を充分に発揮して行われています。他にも「健康リズム体操」、「園芸教室」に「盆栽作り」、「お香を楽しむ」など楽しい会を企画実行して、会員の親睦をはかる機会としています。

以上のように、小河原支部長が掲げられた3本の柱は、役員・会員の方々の努力で支えられています。みなさんは年に9回から12回の打合せや会合を持って会の運営にあたっておられます。再度、お集まりの皆さんにそのエネルギーはどこから生まれるのでしょうかとお尋ねしました。

長峯さんは「体調が悪くて参加できなくてもいつでも待っていてくれる、そこにある居場所の様な気がします。」とおっしゃいました。

武重さんは他県から埼玉に移り住まれたとの事、「知人や友人のいない中で、実践の同窓と言う事から、地域や人とのお付き合いが生まれました。」と経験をお話し下さいました。

また、『埼玉支部 10年のあゆみ』・『埼玉支部 20年のあゆみ』という年表冊子を上田理子（昭和26年／専国卒）さんとご一緒に編集された本間さんにお話を伺うと、小河原さんが総会はもとより打合せ・講演会・旅行会・研修日程に至るまで毎回紙に進行表を記してこられ、それをきちんと保管整理するように指示されているそうです。本間さんは「ひとつひとつの記録が10年・20年と集まった時に、歩んできた道筋がはっきりと見渡せて、編集した者として感慨ひとしおでした。」とおっしゃいました。

皆さんが、大変な支部活動を支えている源は同窓の繋がりという安心感とお互いの信頼にあるのだろうと思い至りました。

それは、小河原支部長が、長年にわたる教育者としての視点を持って実践女子学園やその同窓の人達を愛しみ、その発展・成長を願う心が支部活動の源となっているということなのでしょう。

同窓の皆様と過ごす居心地の良い時間こそが同窓会の意義なのだと心から思いました。

最後に、初対面の私たちを快く受け入れて下さった皆様に心より感謝申し上げます。

（広報部）

支部だより2016

SHIBU DAYORI

札幌支部　岩本郁子（昭和37年／大食卒）

今年も6月12日（日）に平成28年度総会と懇親会を20名の参加を得て無事終了する事が出来ました。

体調をくずされたり、悲しいお知らせを受ける代わりに、初めて出席の方が5名も参加して下さいました。

総会後のミニ講演会では、駒木根寿美子様（昭和37年短英）が、御長男に先立たれ50歳過ぎて仏門に入られ、今は布教活動をされておられるので、法話を頂きました。

凛としたお声で皆さまの心に残る癒しをもたらして下さり、懇親会もすっかり盛り上がり絆を強めることが出来ました。

今年もYOSAKOIソーラン祭り出演の在校生達と先輩応援団の温かい交流ができ、元気を頂きました。

社会活動は、昨年も大変好評でしたので今年度も同様に「健康づくり講演会」として、役に立つ自己管理健康法をめざして、今年も予定しております。

日時　2016年11月12日（土）
13：30～15：30
場所　藤女子大学 755教室
支部会員のご協力を期待しております。

函館支部　宮腰泰子（昭和34年／大英卒）

函館支部の誕生は古く、60年近くになります。函館及び道南地方の卒業生で、最近は高齢者が多く、年一度の支部総会、親睦会は年令差を越え、会員相互の絆を深め和やかな一時を過ごして居ります。今年度は秋の開催を予定しており、一人でも多い参加をと期待して居ります。

函館は去る3月26日待望の北海道新幹線が開通し、例年よりは旅行者も多く、近隣の町村も賑わって居ります。又6月26日は開業を記念し、フル、ハーフマラソンが五稜郭地区、湯川温泉街及び赤レンガ倉庫群と湾岸道路の観光スポットを7千人近くの走者が走り抜け、走者も応援者も大いに盛り上がりました。新幹線を利用し、一度御来函なさってはいかがでしょうか。

岩手支部　吉清水 裕子（昭和49年／大国卒）

今年度は7月3日にホテルルイズで一般公開講座・総会・懇親会を開催しました。

テーマは"脳活音読"です。講師は元岩手放送アナウンサーの方々で結成されたKOTOSE（ことばの☆せせらぎ）にお願いしました。

脳活音読は認知症予防・免疫力アップ・脳の活性化にも良いとのことです。

リズムにあわせ、体を動かしながら宮沢賢治の詩を音読しました。一般参加の方々にも大変喜んでいただけました。

総会・懇親会は18名の参加でしたが、身体にやさしい中華料理をいただきながらの近況報告に大笑いで、楽しく終了しました。

宮城県支部　渡辺 恭子（昭和39年／大国卒）

今年度の宮城支部総会は7月2日（土）11時から昨年と同じ古民家を会場として15名の会員が集まりました。

今年は、91歳の飯岡絹子先生がお元気でビーズのネックレス作りをご指導下さるのでみんなこの日を楽しみに待っていました。

開会の挨拶の後、新役員の紹介、会場となる家の簡単な歴史を説明しました。

ここは伊達藩の下級武士の役宅として文化文政時代1820年頃の建物で、天保の改革の頃、藩が手放し、譲り受け今日に至っています。

200年の間、この家に暮らした何代もの家族の様子を見、話を聞いているので、神棚、梁、柱、壁から昔話を聞きたいくらいです。

この後、茶室で薄茶を喫し、昼食後それぞれの近況をお聞きしながら、数々の種類の違うビーズを選びキラキラと美しく輝く完成品を持って帰宅となりました。宮城支部は実践の卒業生が他県に比べて少ないのでみんな身内の様な気持ちで和気あいあいで今年の会も終わりました。

秋田支部　境田幸子（昭和48年／大被卒）

本年は、11月に総会を開催する予定となっております。

また、この度、秋田県立美術館館長にご就任の、仲町啓子氏（実践女子大学文学部美学美術史学科教授）をお迎えして、先生を囲んでの会を開催させていただきたいと希望しております。

山形支部　相原陽子（昭和38年／大国卒）

今年度の山形支部総会は、上杉謙信を始め、米沢藩主代々の廟所のある米沢市で6月5日に開催されました。会場の「吉亭」は、江戸時代の末期から"津の国屋吉貞"の屋号で絹織物の織元だったお屋敷です。格式の高い建物・お庭を拝見しながら、総会・懇談会が行われました。また、米沢地区の幹事の方々の計らいで、米沢市に住まいする落語好きの面々から構成されるという「落語長屋」の方々による落語も楽しみました。

参加会員の方々からは、近況報告や現在新たに学んでいる趣味等などの報告や余興がありました。また、昔、少し古い昔、大学で学んだ時代の想い出などにも花が咲きました。桜会に若い方々の参加が少ない事などにも及びました。しかし、米沢地区は新しい若い方の参加があり、中堅の方々の活躍ぶりも感じられて、山形支部健在を再確認しました。

総会に出席すると、各支部の方々に新卒者の様子を伺います。出身県に戻る卒業生の割合や、戻っても支部の会員として参加してくれるか否か…。どうも芳しくありません。

今後の支部の様子が危ぶまれます。

実践桜会本部も理事長をはじめ、理事の方々も新しく出発のようです。地区も倣って惜しみなく協力したいと存じます。

福島県支部　山田厚子（昭和49年／大被卒）

今年で三年目を迎えます会津若松での支部総会は、本部より鈴掛まゆみ理事長、宮城県より渡辺恭子支部長をお迎え致し、「6月26日（日）郷土料理田季野で22名の参加を得、開催いたしました。

本年は同窓生の田口恵子様に12年ぶりの講演をお願いし、公開講座と致しました。

題目は俳諧師芭蕉と「おくのほそ道」

場所は会津稽古堂、約30名の方々にご参加頂きました。

芭蕉の生い立ちや俳諧とは何ぞや等、活力溢れるお話振りは芭蕉の歩いた道を共に辿っている様でした。

懇親会では90歳から30歳と年の差があるにもかかわらず、和気藹々と歓談致しました。先輩の方々のお話をお聞きする度に実践女子大の素晴らしさを認識致します。

ここ数年会員の増加に努めて参りましたが、今年は昨年より6名増となり大いに成果が現れたようでございます。これも一重に会員やそれに関わる皆様のご厚意の賜と深く感謝申し上げます。

3年間ご協力頂き誠にありがとうございました。

茨城支部　久保田節子（昭和40年／短大英卒）

去る6月26日（日）水戸京成ホテルに於いて茨城支部の総会を開催しました。

会員14名の出席、午後からの講演会には地域の方々が16名参加して下さいました。

総会後の講演会は能楽師の森田流笛方寺井宏明氏により「能の囃子―笛（能管）ミニライブと楽器体験」の題目で行われました。

寺井氏は重要無形文化財総合認定保持者で、もとは奈良・春日大社奉仕の猿楽役者という、笛方の十四代として生まれ、6歳で初舞台を踏み、それ以来、東京を中心に舞台活動をして来られました。

講演前半は能の歩みについてのお話でした。

室町時代や江戸時代は将軍お抱えの笛方として、明治時代は財閥、昭和は会社経営者の後援を受けておりましたが、近年は、民間の後援会があるものの、観客動員数が激減し、若手を中心に能楽堂を飛び出し、ワークショップ公演やライブ活動が増えているそうです。

後半は囃子方の笛・小鼓・大鼓・太鼓の音を実際に出しての説明でした。

笛は能管（のうかん）とも言い、煤竹を割った物を筒状にして漆をかけ、樺で巻いた笛。「ヒシギ」という鋭く甲高い音が出て、神を呼ぶ声とも言われ、縄文時代からの儀式には欠かせない音だったそうです。

水戸黄門も好まれたという「能」の世界。当県の真壁の桜川に由来する謡曲の「桜川」が有名です。講師の先生のお話を聞き、有名な「桜川」のお能を鑑賞したくなりました。

栃木県支部　池島敬子（昭和49／大英卒）

今年度の栃木支部は8月27日（土）に会員の飲食店で、今年度の総会案内の発送を致します。今年の総会は10月16日（日）に益子に行きます。

行程は、東部駅前からチャーターしたバスに乗り、

1 ワグナー　ナンドール　アートギャラリー（益子）　見学（ハンガリー出身で亡命して日本に帰化した彫刻家。春・秋　1ヶ月づつ公開しています。）
2 青山で総会　昼食
ここで総会をし、お食事を頂きます。
一日一組限定のお食事処。
益子焼も作っており、購入もできます。
お茶室もあり、お抹茶もいただけます。
3 サシバの里いちかい（道の駅）
サシバとは絶滅危惧Ⅱ種の猛禽類サシバの世界的繁殖地
ここでお待ちかねの楽しい栃木県の名産品等のお買い物をして帰途に着きます。

総会が終わりますと、会費のお振込みを頂いた方で総会を欠席された方には総会終了のお知らせと写真、決算書をお送り致します。年末には会員の方の飲食店で懇親会を開き旧交を温めます。

群馬県支部　茂木初枝（昭和45年／大被卒）

設立20周年を迎えました。群馬支部は同窓会の中では遅い誕生でしたが、20年目を迎えることが出来ました。

総会は、6月12日（日）ホテルメトロポリタン高崎にて開催、続いて、講演会、懇親会を行いました。講演会は去年に引き続き「源氏物語の女性達、パートⅡ藤壺の宮」と題し、雅の世界にあって、優しさの中にも自分の考えを持ち［過ちは三度犯さじ］と言う強い生き方を貫いた藤壺の宮の生涯を学びました。

余談として、近年国内で大地震が連発している事に触れられ、「方丈記」の中にある800年以上昔、都で起きた大地震の記述部所を取り上げ、解説を受けながら、全員で音読しました。映像がなくても地震の時の人々の恐怖や悲しみが推察でき、繰り返される大自然の歴史を教えられました。

続いての懇親会は、設立の頃からの思い出話や、増えてきた記憶の衰え話など、年齢の差を感じない楽しい話題で盛り上がりました。設立の為にお骨折り下さり、ご尽力頂きながらも、体調不良などで祝宴にご一緒出来なかった先輩方が居られたのが残念でした。

次年度も講演会は「源氏物語」を予定しております。ご参加を心からお待ちしています。

埼玉支部　小河原俊子（平成4年／院食修）

実践桜会埼玉支部は、平成28年6月25日に第20回記念総会並びに講演会・懇親会を、さいたま市のワシントンホテルで開催しました。

当日は、井原徹学園理事長、田島眞学長、鈴木利昌入試センター部長、鈴掛まゆみ実践桜会理事長、熊切冨子家政科会会長はじめ各科会の科会長、茂木初枝群馬支部長をはじめとして多数のご来賓のご臨席を賜り記念の会を行うことができました。

講演会は能楽師観世流シテ方重要無形文化財総合指定保持者の小島英明氏をお招きし能楽のススメ「羽衣編」をお話いただき、最後に謡「羽衣」の一節を小島先生のご指導のもと皆さんで謡いました。また、20年の記念として「実践桜会埼玉支部20年のあゆみ」を「埼玉支部10年の歩み」以降の10年間をまとめた記念誌を刊行しました。

今年も例年行っている彩の国めぐり研修会「平家物語をたずねて」として、埼玉県の名所を訪ねる研修会を実施します。10月5日10時深谷駅集合です。絵手紙教室を3月に企画しています。

埼玉支部は、絆を大切にして次の5年、10年更に先の未来を目指して実践の同窓生のつながりを大切にして皆様とともに進んでまいりたいと願っています。

千葉支部　出家成子（昭和47年／大被卒）

第13回千葉県支部総会を6月5日に開催しました。今年の講演は、同窓生の元実践女子大学非常勤講師で、杉並区の中瀬幼稚園園長の井口佳子

様をお迎えし、幼児のお絵かきより「やっと見つけたこと」をテーマに、長年の幼児教育に携わった経験の中から、貴重なお話を頂きました。また東京音楽大学の学生3人のミニコンサートも昨年より一段と上達され楽しいひとときをもちました。

今年の3月に銚子市でミニ同窓会を開き、銚子ネットワークが誕生しましたので、銚子の魅力をお伝えします。関東で一番早く初日の出を拝める銚子は、黒潮、親潮がぶつかる気候温暖な地域です。　昔から文人墨客の来遊が多く、海岸線に建つ文学碑を訪ねるのもよい散歩コースです。岩に波が砕け散る海岸線、明治時代にはアシカが岩場でのどかに寝そべる姿も見受けられ、明治の画家浅井忠のスケッチも残されています。温泉に浸かり、銚子漁港で水揚げされた新鮮な魚料理に舌鼓し、太平洋の海原をぼおっと日なが一日、眺めるのもよろしいかと思います。

活動予定

・会報「ミルフィーユ」発行…8月、12月、4月
・君津・木更津ミニ同窓会(秋頃)
・ときわ祭バザーに釜石・大槌復興支援協力参加
・同窓生インタビュー
・第14回千葉支部総会　4月16日

皆様のご参加をお待ち致します。

神奈川支部　守田由紀子
(昭和48年／短大英卒)

「小田原支部実り会」が「神奈川支部」へと生まれ変わり、6月5日(日)に発会式が行われました。これまでの多くの卒業生の皆様のご尽力によるものと深く感謝申し上げます。

昭和38年11月からの実り会活動を「航跡」として小冊子に残し、皆様に配布させて頂きました。引き続き、これまでの実り会々員の皆様にも神奈川支部へのご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。ご自身の「出身学部の科会」と共に「在住地の神奈川支部」へのご入会をお待ちいたしております。

回覧板が回るほど近くはないかもしれませんが、皆様のお住いのご近所に“実は同窓生が住んでいた”ことに気づける機会でもあり、何とも感動的で嬉しいものです。神奈川県内はとても広大ですので、今後の「総会」や「行事」は県内各地を回って開催していきたいと思っています。

会員の皆様の情報やご意見をお聞かせ頂きながら、微力ではありますが、「新しい航跡づくり」に皆様と一緒に前進して参ります。

山梨支部　大島節子
(昭和47年／短大栄卒)

山梨県支部では毎年6月にラベンダー収穫作業を行っています。今年も6月20日、8名の参加でラベンダーの収穫を行いました。毎年、母校のバザーにラベンダーの匂袋を送らせていただいております。会員が一針ひと針に心を込め袋を仕上げ、中にパンヤに包むようにしてラベンダーの花をタップリ詰め込んでいます。作業部屋はむせかえるほどラベンダーの香りでいっぱいです。ラベンダーの香りは心をおだやかにさせる効果があるそうです。会員手作りの匂袋、今年もバザーで皆様がお手にとってくれるのを楽しみにしています。

また、無添加石ケンを使ってハーブ石ケン造りを行いました。ハーブの抽出液とハチミツで仕上げた石ケンで会員のみんなの顔がより美しくみがかれることと思います。

9月には支部総会と併せ、マクロビオテック料理講習会を計画しています。

山梨県出身の大村智先生は「一期一会」という言葉を大切に日々を送られ、今回のノーベル生理学、医学賞を受賞されました。我が家の愛犬もその恩恵にあずかっています。この「一期一会」の心を大切にして今後も会員の親睦を中心に支部活動に取り組んでいきます。

長野支部　矢ケ崎 邦子
(昭和32年／短大生卒)

第36回長野支部総会は、平成27年10月4日（日）、南アルプス山麓の紅葉が始まった伊那谷の伊那プリンスホテルで,24名の参加を得て開かれました。地理的に南北に長い長野支部は3ブロック(北東信、中信、南信）に分けられ、それぞれの地区でも集まりを持ち、同窓生の絆を深めております。年一回の支部総会は輪番制で実施しております。

平成27年度は南信ブロックの当番でした。新しく若い会員の参加もあり、皆様の努力で賑やかな楽しい同窓会になりました。総会の議事終了後、本部からの「社会活動助成金」を使用させて頂き、一般の方々にも呼び掛けて、今年度は「伊那三曲有志による邦楽演奏会」を開催いたしました。大勢の方がお越し下さいました。1時間ほどの間、澄みきった秋空に響く美しい邦楽の音色を堪能いたしました。

平成28年10月2日(日)、松本東急REIホテルに於いて、第37回長野支部総会が開かれます。会員の皆様のご参加をお待ちしております。

新潟支部　寺澤昭子
(昭和41年／大食卒)

新潟支部では実践桜会の社会活動助成金支給を申請し、このたび初めて社会活動を企画しました。9月19日(祝日・月）に公益法人ブルボン吉田記念財団が主催、新潟県、柏崎市他が後援する「ドナルド・キーン先生の講演会」に併せて、支部として同窓生と一般の方々が参加できる「ドナルド・キーン先生の講演会とキーンセンター柏崎の見学会」を行います。キーン先生の講演を直に聴けることは、千載一遇の機会なのでとても楽しみにしております。予算の都合もあり、定員制ではありますが、助成金を支給して貰うことにより、新潟駅から大型バスをチャーターしても、個人の負担は少額に抑えることが出来ます。

柏崎市にドナルド・キーンセンターが開設するに当たっては、柏崎在住の吉田真理さん(昭和55年／大英卒）が深く関わっておられました。これらの経緯は、支部会報などで吉田さんから伺う機会を得たいと思います。

キーン先生は2012年に帰化され「鬼怒鳴門」キーンドナルドという名前の日本人になりました。文化勲章受章者で日本文学の研究者として高名な先生としか、知識のなかった私は、キーン先生が新潟市西区出身の上原誠巳氏と養子縁組をし、柏崎市にキーンセンターが出来たことなどで、先生はなにか新潟県に身近で大切な存在になったようにおもいます。

富山支部　山本 順子
(昭和33年／短大被卒)

富山は関東圏と関西圏の文化や大学の進学先も入り混じっています。

北陸新幹線が金沢迄開業いたしまして1年余り、東京まで二時間弱と近くなり関東圏の方が色濃くなったように感じます。

東京へは大変便利になりましたので同窓の皆様方、素晴らしい母校を訪ねていただきたいと思います。

長い間休んでいます支部の活動も、来年度は新体制に向かって動き出したいと思っております。

石川支部　紙谷 玲子
(昭和42年／短大英卒)

北陸新幹線が開通して1年になります。東京から金沢迄2時間半、長野より1時間、石川県は土・日・祭日は、宿泊困難といわれています。加賀温泉、能登半島迄も観光客で賑やかになったようです。桜会石川支部には能登の会員もたくさんいらっしゃいます。世話人会は一度能登で会合を開きたいと考えております。

28年度の予定は4月下旬に役員会を開催いたしました。11月には支部総会・懇親会を開催いたします。

福井支部　谷 洋子
(昭和42年／大食卒)

2014年に北陸新幹線が金沢まで開通し、福井駅前も恐竜のモニュメントや商業施設ビル（通称ハピリン）が出来上がり、にぎやかになってきました。

新緑が梅雨に輝く6月26日、平成28年度総会を福井駅前「八兆屋」にて行いました。

総会後の懇親会では、会員5名が新鮮な魚料理を食べながら、和やかな雰囲気の中、近況などを語り合いました。また、下田歌子先生の生誕地ツアーへ参加した会員の話も楽しくうかがいました。懇親会後は、文化会館へ場所を移し、スロヴァキア国立オペラを鑑賞しました。最小限の小道具と表現力豊かな伴奏のみのコンサートオペラでしたが、十分にソリストたちの歌を堪能することができました。梅雨の小雨の中、ホッと和んだひと時をすごしました。

岐阜支部　伊藤 敬子
(昭和41年／大食卒)

今年度は愛知支部と合同で総会を開催いたしました。

静岡支部　鏡島 眞理子
(昭和52年／大被卒)

静岡支部は平成七年六月に発会して以来、ささやかな歩みながらも早二十年を過ぎ、昨年は、学園後援会主催の地区懇談会の開催地としての責任を、地区の会員のみならず、家政科会はじめ、香道研究会、小田原支部長など、先輩諸姉のご協力のおかげで、無事に果たすことが出来、感謝に堪えません。学園の方針で、地区懇談会は静岡での会が最後になりましたが、その重要性を改めて考え、今後も地区活動の充実をと思いを新たに致しました。

例年の静岡支部の事業である公開講座も一月末無事に終了し、地域の文化振興の一助にと言う発会からの思いを大切に、今年度も継続して参ります。今後も皆様のご協力をよろしくお願い致します。

愛知支部　神谷 洋子
(昭和47年／大食卒)

平成28年7月9日(土)愛知県東海市で第14回「下田歌子賞」募集記念特別展示及び講演会があり、愛知県支部の代表5名で参加しました。

演題「揺りかごを動かす手は、世界を動かす」実践女子大学下田歌子研究所所長湯浅茂雄先生の講演です。

下田先生の意欲的な行動力、いろいろな書籍の跡、その時代を女子教育の為にかけ抜けてきた事、家庭で育つ女子力等、楽しく映像をまじえて聴くことができました。集まった5人の方々も熱心に生徒の様に講演にきき入りました。ありがとうございました。

私たち愛知県支部は、11月下旬頃に総会を開く予定です。能楽堂で食事会をして、今公開している名古屋城本丸御殿「対面所・下御膳所」を見学する予定です。対面所は、藩主と身内や家臣との私的な対面や宴席に用いられたそうです。

名古屋市は、敬老パスがあり(有料)地下鉄や市バスで市内はどこへでも出かける事ができ、七十代八十代の高齢者が元気に暮らしています。

そこで、いろいろな場をめぐって、愛知県の良さを発掘してこうと思っています。是非愛知にも立ち寄って下さい。

三重支部　竹腰 葵
(昭和44年／大英卒)

三重支部では「平成28年度総会」を平成28年11月12日(土)に開きます。

事業報告、会計報告を済ませた後、出席の方々の開催場所としての希望が多かった「呼月」で日本食を頂き、農学博士　水谷玲子さんに2013年12月「ユネスコ無形文化遺産」に登録された和食のお話をして頂きます。日本の風土から生まれ、私たちを育ててくれた「和食」を改めて感じたいと思います。

初めて参加してみようかなと思っておられる方、いつもご協力下さる方々にお声をかけてご参加のお誘いをさせていただきます。

日時　：平成28年11月12日(土)11時半～
場所　：「呼月」近鉄四日市駅から
徒歩4分　Tel 059-350-0500
問合せ：竹腰 葵　　Tel 059-352-3334

関西支部　並川 みき子
(昭和45年／大国卒)

関西支部は毎年、学祖祭後の10月に総会。親睦会ならびに公開講演会を開催し、二府四県現在191名の会員同士の親睦を図りながら活動しています。

本年は平成28年10月19日(水)午後2時より第84回関西支部　総会・懇親会をおこないます。

講演会は「凛として」著者の仲　俊二郎先生をお招きし、ホテルニューオータニ大阪　18F大阪城を見渡せるサンセットの間でマララ下田歌子の真実についてご講演いただきますので、是非ご参加ください。

昨年は講師に同窓生の実践女子大学文学部英文学科教授大関啓子先生をお迎えし、下田歌子学祖が明治32年（1899年）私立実践女学校、女子工芸学校を立ち上げるに至った謎を欧米視察（1893.9～1895.8）周辺から、先生が実際に英国で取材された画像をプレゼンテーションで提示されながら、解き明かして頂きました。

同窓生一同、下田先生の偉大さに初めて触れるとともに、大関先生の魅力あふれる語りに引き込まれ、感動的な時を過ごさせていただきました。最後に「皆様はその偉大な学祖創立の実践女子学園の卒業生ですよ」としっかりと」皆を見つめ、問いかけて頂き、思いを新たにいたしました。

今後も“新たなる実践桜会関西支部を求めて”活動を行い、西から東に強力な風を送り続けます。

鳥取支部　常田明美（昭和41年／大食卒）

平成28年度の活動予定は、6月23日に役員会開催、平成28年度の事業として、昨年学祖の故郷岩村への旅を先取りし、延期していた東京へ10月13日（木）～14日（金）実践の新しくなった校舎・同窓会館の見学、観劇、はとバスにての遊覧を予定しております。

鳥取支部は同窓会への出席者が限られてしまっているため、親睦を深めることと視野を広くするために、視察研修旅行を数年来行っています。

6月22日参議院議員選挙が公示され、憲政史上初の合区となった鳥取・島根選挙区は細長く広い二つの県をまたぐ選挙区で、県都鳥取市で候補者本人のいない出陣式という異例の選挙が始まりました。

島根支部　大谷 香代子（昭和49年／大国卒）

本年度の実践桜会同窓会総会には、島根支部から会計担当の方と2名で参加させて頂きました。

渋谷という街は、私にとりましてもとても縁と思いの深いところであります。大学所在地でありますことは言うまでもない事です。加えて学生時代より「島根会館」という島根県民宿泊施設がありました。それは昭和30年代より存在していたようですが、今も「島根イン青山」と名を変え、ホテルとして島根の方々中心に利用されています。実践女子大のお隣程の近さです。

本年度の島根支部総会は、9月5日に料理の鉄人に出演された方のお店で開催予定をいたしております。また昨年27年度支部の社会活動催事として、（公財）出雲文化伝承館と共催で講演会を開催いたしました。約100名の参加者があり初めての催しとしては成功したと感じております。本年28年度の社会活動催事は、十二単衣の正式な着装を、研究会京都支部の冷泉美智子様・久世愛子様に実演講演をしていただく予定でおります。このような活動を通して、実践桜会・実践女子大学の名前が、当地域の方々の頭の中に少しでも留まるように願っております。

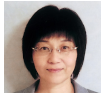
岡山支部　谷本淑恵（昭和54年／大英卒）

皆様、こんにちは、平成13年に発足しました岡山支部です。16歳になりました。早かったような長かったような…確実に言えることは、続いているということ。つまり、頑張っています。毎年、支部会を開き、お食事をし、お喋りをし、岡山で生まれた実践の輪を守っています。「なよたけ情報版」をご覧になっている岡山在住の皆様、私たちの仲間になりませんか。是非是非、一緒に渋谷や日野の話をしましょう。楽しかったこと、苦しいことも悲しいこともあった、あの時ことを先輩後輩と共に。何のしがらみも縦横もない、ただ、実践に通っていたという最大、最小の共通だけで、同じ思いになれます。興味を持たれた方、桜会のHPを見て下さいね。

さて、昨年は支部名簿の一番にお名前が有るS14年に専門家政を卒業された大先輩が出席してくださいました。下田先生に憧れ、先生の教えを受けたいと広島から上京。すでに乳癌に侵されながらも、必死に教鞭に立たれた先生に、一ヶ月、ご教授頂けた…と。その当時の渋谷の街並み、下宿先のことなど、大変、興味深いお話をして下さいました。

今年は、10月27日（木）、岡山駅に隣接するホテルグランビアの中華料理店「重慶飯店」で支部会を開催します。　皆様、どうぞいらしてくださいね。お待ちしています。

山口支部　根ヶ山祥子（昭和61年／大被卒）



山口支部では、昨年7月25日に会員交流会を開き、久しぶりにお会いする方々と楽しい時間を過ごすことが出来ました。会場に選んだのは下関市の赤間神宮です。おいしいお料理を囲み、宮司様のお話を伺いながら和やかな会となりました。赤間神宮は、壇ノ浦の戦いにおいて幼くして亡くなった安徳天皇を祀る神社で、竜宮城を模したと云われる竜宮殿は何度見ても目を奪われるほど見事です。目の前には関門海峡が広がっています。この日は偶然、挙式披露宴を挙げられる和装の御二人の姿を拝見し、それがまたこの建物と調和していて本当に素敵でした。お陰様でより楽しい思い出となりました。

県内には100名を超える会員がおりますので、より多くの方に参加していただけるよう、今年は紅葉狩りなどはどうかと考えているところです。各地区の御報告を参考にさせていただき、これからも楽しい集まりにしていきたいと思います。

愛媛支部　城徳かをる（昭和41年／短大生卒）

平成27年度支部総会は写真家蜷川実花さん、プロデュースの「道後アート」で、華やかな道後の「椿本館」で、開催しました。今年28年は、山口晃さんが、プロデュースされています。ぜひ愛媛へ、お越し下さい。

総会では、新しい会員さんに一人でも多く出席してほしいので、それぞれ、お友達に声掛けをお願いいたしました。「なよ竹」・「家政科会たより」・桜会からの資料などを、互いに読みながら、現在の母校の話に花が咲きました。

「新築の立派な校舎も外観を眺めて来たよ。」などなつかしい寮生活、共通の恩師など、話はつきません。

2017笑顔つなぐ愛媛国体が開催されます。「みきゃん」・「バリィさん」も、まっとるけん。（おまちしております。）

平成28年11月6日（日）支部総会・松山市で予定しております。

高知支部　青木京子（昭和49年／大国卒）

昨年支部を立ち上げ、二年目の今年は、一月に桜会常任理事の方々のお祝いと激励を兼ねた高知訪問があり、出席した者はとても感激いたしました。初顔合わせでありますのに、同窓生とはふしぎなもので、とても楽しい時を持ちました。また、五月の定時総会には支部長として青木京子が初出席いたしました。新支部ということでご挨拶を申し上げる機会をいただきました。そんなことで、五月の予定でした定例会は来年にということになり、ミニレター的な会報を八月に送付したいと準備しています。また、少しでも会員の掘り起こしをして来年の定例会につなげたいと願っています。

さて、高知では大政奉還150年、明治維新150年にあたる平成29年30年に「志国高知幕末維新博～時代は土佐の山間より」というイベントが予定されています。この機会に自然豊かで、おいしいものも豊かな高知に是非お越しくださいませ。

福岡支部　玉井由起子（平成3年／院被修卒）

4月14日以降に発生した、熊本県・大分県を震源とする地震により亡くなられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災されたみなさまに心よりお見舞い申し上げます。また、一日も早い復旧、復興を果たされること、そして被災されたみなさまが平穏な日々を取り戻せるよう、お祈り申し上げます。福岡地方においても、経験したことのないような激しい揺れと余震で、大きな被害こそありませんでしたが、不安な日々が続きました。熊本県や大分県のみなさまのことを思いますと、同じ九州の支部として何かお役に立つことはできないか、「九州はひとつ!」を合言葉に、今後福岡支部で話し合っていきたいと考えております。

福岡支部再結成から3年目を迎えることができました。第1回・第2回の総会・研修会には、お忙しい中、また遠方から会員のみなさまに参加していただきました。「日本の伝統文化に触れる」をテーマに「香道講習会」（島根支部長・大谷様に講師をお願いいたしました。）、「博多座・歌舞伎観劇」を実施いたしました。本年度は「和食：博多の郷土料理」と題し、11月に博多老舗料亭にて研修会を開催する予定です。9月頃に福岡支部はもちろん、九州各支部にも案内をさせていただきたいと思っております。多くの会員のみなさまのご参加をお待ちしております。

佐賀支部　藤山たか子（昭和49年／大食管卒）

6月8日に第52回佐賀支部会を地元の老舗あけぼの旅館にて開催致しました。メンバーは例年とほぼ変わらず10名の参加でしたが、雨に降られることもなく、充実した時間を過ごすことができました。最年長の方は89才で現役の女流書家でもあり、毎回パワーを頂き、あこがれの先輩でもあります。

改めて思うに佐賀支部会はパワーある諸先輩方のおかげで半世紀もの間続けてこられたような気がします。これからもさらにこの絆を大切に会を盛り上げていけたらと思います。

長崎支部　山脇 美代（昭和55年／院食修）

長崎支部は今年度の活動はまだ行っておりません。

熊本支部　乙丸 由美子（昭和53年／大食管卒）

余震の続く中、実践桜会より支部への義援金をありがとうございました。

私自身、地震で罹災し一月半に及ぶ避難生活を送りました。5月末日にやっと自宅1階はどうにか生活できるようになり、なんとか日常にもどりホッとして居ります。今後も自宅修理など、1年近くかかりそうです。支部活動も気にかかり気持ちだけが先走りしておりますが、現状では母の介護と仕事とで精一杯の毎日です。

大分支部　清水 登美子（昭和50年／大国卒）

先日は大分地震へ温かいご支援、及びお見舞い金をいただき、大変感謝申し上げます。
被災者の方へ有効に使わせて頂きます。ありがとうございました。

鹿児島支部　山口 圭子（昭和57年／大食管卒）

このところ「なよたけ」には、新支部の発足や再スタートの明るい記事が掲載され、支部ごとの活発な活動内容等にも、刺激を受けております。

それぞれの支部に歴史ありで、昭和20年代後半に発足した鹿児島支部は、長い間、下田先生の教えを直接に受けた大先輩が中心となり運営されて参りました。今回は、私が入会した頃の1993年の写真を掲載させて下さい。

社会で、家庭でそれぞれに活躍され素敵に年を重ねてこられた先輩方です。洋服の肩幅に年代を感じます。新参者の私を暖かく迎え入れて下さった当時の先輩方のお話は、まるで下田先生の講和を聞いているようでした。

以降新入会者もありましたが、最近では総会参加者も半数程度に減り寂しい限りです。しかし、設立された方々の「実践愛」を受け継ぎ、この御縁を大切に活動して参りたいと思います。

4月の「熊本大地震」。当地もたびたびの大きな揺れにみまわれ、隣県ということもあり、熊本県民の方々のご苦労を身近に感じて参りました。熊本の同窓生の皆様には、心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早い熊本県の復興をお祈りいたします。

尚、今年度の総会は10月に延期となりました。ご参加お待ちしております。

沖縄支部　島袋節子（昭和41年／短大生卒）

長年休眠状態だった沖縄支部も中山尚子氏等の尽力により1992年再結成されてから早いもので今年24回目の支部総会を開催することが出来た。おおよその日時も6月最後の日曜日と定着してきているので会員もできるだけその日には他の予定は入れないようにお願いしているが…

さて、我が沖縄は1429年から1879年までの450年間「琉球国」という独立した王国であった。その間、中国の影響を受けながらも独自の文化を築きあげてきた。例えば食文化は言うに及ばず歌や踊り、空手などの武芸、漆器や陶磁器、紅型などの染織物などである。

今回支部総会に参加された会員の中に福島県から沖縄に嫁がれて50有余年になる先輩が今だ現役バリバリで紅型の舞踊衣装を縫っていらっしゃるという報告があり一同感心・感動したのであった。

英国支部　松嶋 みどり（昭和49年／大被卒）

今年度はまだ総会を開いておらず、支部便りにお知らせできる活動をしておりません。

実践ときわ会
科会長：古藤 黎子

実践ときわ会は現在、会員数130余名で、活動の中心メンバーも限られておりますが、「祝・成人の会」のお蔭で総会には平成20年や、24年ご卒業の会員が出席してくださいました。

今年度は、「ときわ会通信」では、更に中・高の情報を多く取り上げてゆく予定です。

とりあえず、中高時代の先生の思い出などのアンケートを試みてみようと考えております。ご期待ください。

2016年活動

■総会6月12日（日）
総会終了後、三遊亭道楽師匠による落語口演会

■8月4日（木）
渡辺美佐子さんの「向田邦子を読む」・「ジョー・オダネルの写真から」という朗読とお話の会。

■初風緑さんの「ストレッチの会」10月14日（金）
■1月9日 「祝・成人の会」への協力
■「ときわ会通信」4月・10月発行
■桜会HP更新
●連絡先：TEL 090-2205-9712
（古藤 黎子）

実践技芸科会
科会長：中岡 久恵

高齢のため出席出来ない会員が多くなり、今年度の総会は取り止めとなりましたが、活動の方では下記の定期講習会を致しております。どなたでも入会は随時、歓迎いたします。

■定期講習会　会場：実践桜会館
・ハーダンガー刺繍教室　毎月第2木曜日

・染色教室（楓会）毎月第2火曜日
・編物の会毎月第3金曜日
・日本刺繍教室（萌黄会）　毎月第1木曜日
●連絡先：TEL 03-3307-6472
（中岡久恵）

実践被服科会
科会長：松岡 久美子

平成28年3月、日野校地整備計画が完成しました。日野校地には通学しなかった方、2年間通学した方、4年間通学した方等日野への思いは様々だと思いますが、いずれにしても出身学科のベースが素晴らしい変貌を遂げたことは嬉しいことです。来年は会員の皆様にも見学していただく機会を作りたいと思っています。お蔭様で被服科会も創立25年を迎えました。被服科改め生活環境学科の卒業生も多くなりました。今年、生活文化科会が創立されました。被服科卒業生と生活環境学科卒業生の融合をしっかり図る時期が来たと思います。卒業生のたて糸を繋げる努力を今以上にして参ります。

今年も下記の3事業を計画しました。楽しさの中にも学びと体験、技術、知識の集積を考えています。会員に限らずご参加ください。

ご入会は随時お受けいたします。

年間行事

■総会・懇親会
4月17日（日）11:30～
会　場：銀座三笠会館本館

■講演会：〈おでかけ好きは長寿の秘訣〉
6月13日（月）：13:30～
会　場：実践桜会会館
講　師：星 旦二先生
（首都大学東京名誉教授）

■見学会：〈東京農工大学科学博物館見学と昼食〉
9月27日（火）10:00東小金井駅集合
昼　食：TERAKOYA（フレンチ）
参加費：7,200円

■講習会：〈クリスマスリース作り〉
11月29日（火）13:30～
会　場：実践桜会会館
講　師：高瀬章子氏（フラワーデザイナー）
参加費：6,000円
申込締切り：11月15日（火）
クリスマス後はお正月仕様に出来るリースです

■会報誌発行
・歌ごろもニュースNO.20　6月初旬発行
・歌ごろも25号　12月初旬発行

■ときわ祭桜会バザー協力品製作
ビーズのネックレスを製作、桜会に寄贈。

●連絡先：TEL＆FAX 03-3721-9378
（松岡 久美子）

実践家政科会
科会長：熊切 冨子

56回目の総会を迎える事が出来ました。

講演2題 生活科学部長・城島栄一郎先生、女性労働協会理事長　鹿嶋敬先生にお願い致しまして大勢の参加者共に勉強いたしました。

今年度も社会の求めに向かい歩いて行くことを念頭に事業計画を考えております。

平成28年度事業計画

■「家政科会たより」発行　5月20日
■ 家政科会総会
講演とコンサート　5月29日
・講演2題「下田先生の家政学」
「男女共同参画社会」
・クラシックコンサート
■ 三越劇場観劇会　6月19日
・深川の鈴　・国定忠治
■ 中国料理講習会　8月21日
会場：「フーシャン」
■ 福祉事業
「作業用エプロン縫製」　9月28日
■ バス見学会　11月16日
・青梅「小澤酒造」
・「川合玉堂美術館」
■ 歳末助合「一円玉募金」より寄付
キリスト教海外医療協力会に古切手寄贈
12月15日
■ 新年会正午より　平成29年1月18日
会場：ハイアットリージェンシー東京
● 連絡先：045-571-0213　（熊切冨子）

実践国文科会
科会長：若松幸子

実践国文科会の会報誌「りんどう」発行を中心に年間行事を企画実行しています。

会員に限らず何方でもご参加できます。

28年度行事は以下のとおりです。

昨年から「東京都台東区立一葉記念館」の「一葉祭」に参加できるようになりました。

ご希望の方は国文科会へご連絡ください。

■総会4月23日（土）13:00 ～
於：大学渋谷校舎内
■記念講演会（総会後）14:30 ～
講演　能「葵上」を楽しむ
講師 解説 実践女子大学教授 影山輝國先生
宝生流能楽師　小倉伸二郎先生
■神奈川近代文学館見学6月10日（金）
「文学の森へ　神奈川の作家たち」
―夏目漱石から萩原朔太郎まで―
■会誌「りんどう」7月22日（金）発送
※上記については終了いたしました。
■一葉祭　11月23日（水）
於：東京都台東区立「一葉記念館」
■新年会　平成29年1月29日（日）
■能・狂言鑑賞会2月11日（土）
於：国立能楽堂
演目：能〈葵上〉　狂言〈呂連〉
※なお、詳細については「りんどう」又はホームページをご覧ください。
連絡先 実践桜会　実践国文科会

実践英文科会
科会長：山内 典子

6月12日（日）第40回総会が開催されました。今年度の事業計画などが承認され、新年度がスタート致しました。総会後の講演会は、実践女子大学文学部英文学科主任教授の稲垣伸一先生により『結婚なんてもういらない？－19世紀アメリカの結婚制度批判』と題して行われました。結婚制度批判から結婚廃止論、さらには「フリーラブ」へと話は進み、最後は、夏目漱石の『それから』にも影響があったのではないかと、興味深い展開になりました。

今年度は秋のバス見学会を予定しています。皆さんの参加をお待ちしています。

年間行事

■会報誌：「英文科会だより2016」9月発行
■ときわ祭バザーに協力
日時：10月29日（土）、30日（日）
■見学会　千葉の美術館を巡るバスの旅
日時：11月9日（水）

■新年会：平成29年1月22日（日）
会場：東京駅ステーションホテル、フランス料理 “ブランルージュ”
■常設勉強会：於実践桜会会館
輪読会A：第2・第4金曜日
10:30～12:30
輪読会B：第1・第3金曜日
10:30～12:30
●連絡先：TEL&FAX 045-862-3744
（山内 典子）

実践生活文化科会
科会長：北村 はるか

生活文化学科設立20周年の記念に生活文化科会を設立し、約半年が過ぎました。生活文化科会では、本年秋頃に科会員の交流を目的とした食事会を、また冬頃に科会員のみならず、生活文化学科卒業生全員を対象とした第2回同窓会を開催する予定です。ご案内は別途させていただきます。科会からのご案内がない場合には、以下の問い合わせ先へご連絡いただけたら幸いです。是非ご参加下さい。

●問合せ先：jj.seibun.og@gmail.com

キャリアネットからのお知らせ

実践キャリアネットは、活動を開始して14年目に入りました。これまで「仕事」をキーワードとして世代・学部を超えた実践ネットワークの充実をはかってまいりました。今後もキャリアアップのための勉強会や、在学生の就職に向けての相談会、異業種交流会を充実させてまいります。

皆様一度セミナー等に参加してみませんか。お待ちしております。

2016年度の活動報告・予定

●総会・講演会
日時：2016年6月18日（土）
会場：実践桜会会館ホール
講師：戸崎史絵氏
（本学卒業生・野村證券立川支店支店長）
戸崎さんの、お人柄の良さが感じられる自然体の語り口で仕事と女性のゆとりあるセカンドライフについてお話いただき、共感を覚えました。

●セミナー
[特別企画]
日時：2016年9月17日（土）
会場：実践桜会会館ホール
講師：鹿嶋 敬氏
（一般財団法人女性労働協会会長）
[第1回]
日時：2016年11月19日（土）
会場：大学スカイラウンジ
「女性の働き方の現状」（シンポジウム形式）
[第2回]
日時：2017年1月21日（土）
会場：実践桜会会館ホール
講師：（株）ワコール　セミナー担当者

●在学生向け就職相談会
大学キャリアセンター主催「卒業生と在校生との交流会～OG懇談会～」に参加
日時：2月
会場：日野校舎及び渋谷校舎

●卒業生のための仕事についての何でも相談会
日時：2016年4、5、6、7月、2017年1、3月第4土曜日（8、10、12月はお休みです）
会場：実践桜会会館
キャリアカウンセラーがご相談に応じます。お気軽に桜会事務局までご予約下さい。
尚、今年度から9、11月、2017年2月に「Cafe交流会」を開催します。詳しくはHPをご覧下さい。

【入会方法】

入会申込はいつでも受け付けております。
桜会事務局（月～土9:30～17:00
日曜・祝日を除く）
TEL：03-3407-7459
FAX：03-3499-0835
※HPからも申込ができます。
http://www.j-sakura.org
年会費：2,000円（入会金は不要）
振込先：みずほ銀行　渋谷中央支店
普通 1748354

平成28年度 実践桜会奨学生

「国際交流基金奨学金」の奨学生は大学院生3名に決定しました。

■VO THI HONG PHUC
ヴォティ ホン フク

ベトナム

横浜国立大学大学院
修士課程2年
工学府 機能発現専攻

私はベトナムのダナン大学を2011年に卒業しました。食品添加物の研究をしましたが、学生生活を通して、より実践的で応用性のある研究能力を高める必要を痛感しました。そこで、ベトナムと日本で日本語学校に通い、昨年横浜国立大学大学院に進学しました。

現在は、日本語・英語の研鑽はもとより、薬品の知識の学習や細胞を使った実験の実習をしています。これからは細胞培養技術を習得して、自ら研究計画を立案し、実験を進めて行けるように一層努力します。そして、日本語能力検定1級合格とTOEIC 800点取得して学会で研究発表が出来るように頑張ります。

将来は、日本の製薬会社のベトナム工場に勤務するか、あるいはベトナムの新規工場の立ち上げを提案して、日本で学んだ技術・知識を生かしてベトナムの医薬品工業に貢献したいと思っています。また、自らの経験をベトナムの学生に伝え、更に貧困の中にいる子供達の将来に自分の力で応援したいと思っています。

今回、奨学生に選ばれてとても感謝しています。2年生になり、就職活動や学会発表の準備があり、勉強に充てる時間を最優先にと考えています。奨学金のおかげでアルバイトの時間を控える事が出来ます。これから奨学生としてますます頑張ります。

■李 金縈 リー チンイン
台湾

東京大学大学院
修士課程2年
人文社会系研究科
アジア文化研究専攻

私の台湾での大学院修士論文は伊藤仁斎の「論語」学と朱子学の比較研究でした。その後2年間、漢字文化圏即ち東アジア研究を長年行っている台湾大学人文社会高等研究院で研究アシスタントを務めました。そこでは、漢字資料研究に頼りその情報だけで研究するという方法が行われており、各国の文化や歴史の底流にある独自の思考方法を捉えていないのではないかという疑問を感じました。そこで、より本質的な「東アジア」研究を進めたいと思い日本への留学を決意しました。

現在は江戸初期の儒学者中江藤樹を通して、中国儒学を背景とした江戸儒学を研究し、日本思想史に新たな観点を加えたいと考えています。修士課程修了後は博士課程に進学を考えており、研究のテーマを仏教・道教・儒教三教交渉の下で「孝」の概念を掘り下げ東アジアにおける「孝」の全体を究明してゆきたいと思います。そして将来は、台湾で博士研究員（POSTDOCTORAL RESEARCHER）を目指します。更には台湾と日本の学術交流に尽力したいと思っています。

奨学金の結果が届くまではとても緊張していました。ヨガをしたり、自分に手紙を書いてみたりと、自分自身と向き合う時間でした。奨学生に選ばれて、自分の今までの研究と努力が認められた事をとても嬉しく思っています。感謝しております。

■曺 喜眞 チョ ヒジン
韓国

東京外国語大学大学院
博士課程3年
総合国際学研究科
言語文化専攻

私は高校2年の秋、日韓青少年親善事業プログラムで初めて来日しました。その折、世界で一番短い詩「俳句」に出会い、強く心を打たれました。その後も日本に深く興味を持ち韓国で日本文学科のある大学に進学しました。そして、何より日本で生活しながら日本文化を体験したいと思い東京外国語大学に入学して古典詩歌を学びました。更に、同大学院に進学してからは、日本・韓国の古典詩歌文学の双方に影響を与えた中国の漢詩にも範囲を広げ、対比・比較研究をしています。古典は現代文学の原点であり、日・中・韓三国の民族の感性の原点であり、民族の思想や理念を反映したものであると考えます。これらを研究することがそれぞれの国の人々との真の理解に繋がると思います。将来は、韓国で日本語・日本文学の教員を目指しています。両国古典の文化的感性や歴史・文化に対する理解が失われつつある今、私はその命脈を保つ研究者になります。更にその先、東アジアを中心とした国際社会で活躍する人材の育成にも関わりたいと思っています。

私は今年12月の博士論文提出を目標としており、アルバイトに時間を費やす事が出来ず不安に思っていました。奨学金が決まったことで研究に専念出来て、本当に嬉しく光栄に思っています。サマーセミナーでは韓国と日本の詩歌の恋愛に関する発表をする予定です。一つ一つの課題に最善を尽くして臨み、奨学生として誇らしく頑張っていきたいと思います。

「実践桜会奨学金」は実践女子学園の生徒の公募者の中から、本年度は大学生2名、高校生1名に決定しました。

■星 千咲

実践女子大学 生活科学部
食生活科学科 管理栄養士専攻2年（山梨県出身）

私は管理栄養士になるための第一歩を踏み出しています。この一年を振り返ると臨床医学概論では、病気の原因の把握と症状の観察によって疾病を持つ人それぞれに個別の対処方法が求められる事を知り経験と知識の重要性を学びました。さらに生化学では、生命の営みを分子レベルで考える事を学習し、栄養素・酵素の働きや代謝を知り、それらが相互に調和し正しく機能することで健康が維持されることを学びました。

将来の夢は管理栄養士として、病院で働く事です。中学2年の時父が急性心筋梗塞で亡くなりました。毎年受けていた健康診断でこれといった所見はなかったのですが、今思うと不規則な食生活に一因があったのではと思っています。その後、食を通して健康をサポートする道に進むことを決意しました。経済面で容易な学部ではありませんでしたが、家族や周りの支えもあり入学しました。そして2年の初めの講義で食品会社と病院での勤務を経験された教授の貴重な体験談にとても励まされました。国家試験に向けて気を抜かずに努力を続けようと思っています。

■松島 この葉

実践女子大学 生活科学部 生活環境学科2年（神奈川県出身）

現在、私は日野市の交通遺児育英会の寮より通学しています。

学生寮では全国から約70人の学生が共同生活しており、地域交流を目的としたボランティア活動を行っています。私は中でも視覚障害者とのふれあい活動に力をいれています。「目の見えないとはどういうことか」を友人と交互に目隠しをして生活体験をし、そこから「声」を出して情景を伝える大切さを知りました。そして、活動の中で点字の読み取りを学ぶなどして、交流を楽しむ事が出来るようになりました。加えて、相手の目線にたって物事を考える・実体験から学びを得る・相手に分かりやすい物事の伝達方法を考えるなど多くを学びました。

将来は衣服専攻を生かして中学校の家庭科の教師を目指しています。ボランティア活動で得た経験から、相手の気持ちを一番に考えて接する事の大切さとインターネットSNSによるコミュニケーションではなく、じかに人と接する中で言葉や感情を伝えあい理解しあうことの大切さを教えてゆきたいと思っています。

創立者下田歌子先生は、女子教育を通して近代女性の地位向上に尽力するとともに、社会事業家としても業績を残しています。1901年から清国の留学生を受け入れ、1905年には後の革命烈士として名を遺した秋瑾女子も留学しています。

「国際交流基金」は当会会員の西山美穂子（旧姓高田・昭和3年実践女学校専門学部英文科卒）から「第二次大戦の体験を踏まえ、東アジアから日本に留学を希望する女性のために役立ててほしい」という強い要望を添えて遺贈された基金に基づき、1994年に創設されました。2004年からは当会会員成田迪子（昭和28年実践女子大学英文科卒、実践女子大学名誉教授）から遺贈された基金を合わせて運営されており、今年は22回目となります。

平成28年度選考委員会（選考委員は各役員選出母体から推薦された5名と理事長、常任理事5名、計11名で構成）を3月に発足、ホームページでの一般公募と、昨年度応募のあった大学にも募集しました。今年度の応募者は留学生91名（内訳：17大学院・10大学・10カ国）でした。第一次書類選考を6月10日（金）に第二次面接選考委員会を6月26日（日）に行い、本年度の実践桜会国際交流基金奨学金の奨学生は大学院生3名に決定しました。

奨学生との交流会を平成28年10月1日（土）と平成29年3月4日（土）の2回開催いたします。
参加ご希望の方は実践桜会にお申し込みください。

参加者全員で記念写真

学年会を終えて

野田 東（昭和50年／短大国文卒）

梅雨を忘れさせるほどの青空に恵まれた7月18日。東京・渋谷にあるセルリアンタワー東急ホテルのボールルームは、4名の先生方を囲む173名の実践卒業生で熱気にあふれていました。待ちに待った『昭和48年高校卒学年会』が実現したのです。

ことのきっかけは、3年前に開かれた高3のクラス会でした。セーラー服姿だった同期もいつしか還暦目前。「次は還暦の会で再会しましょう」。そのひとことから有志13名が集まり、どうせなら学年全員で還暦を祝おうと、学年会の準備が始まったのです。しかし、同窓会から名簿をいただいてみると、3分の1近くが行方不明でした。さっそく13名が手分けして、思い当たるあらゆる伝を辿り電話をかけまくりました。

多くの皆様のご協力で400名近い方々の正確な名簿を作成することができました。

当日は予想を大きく超える人数の皆様にご参加いただき、再会を喜び旧交を温めることができました。会場は笑いと熱気に満ち、還暦過ぎのはずがいつしかみんな懐かしい女子高生の顔に戻っていました。これを機会に、各クラスでも新たな動きが始まっています。同窓会とのより強い繋がりも生まれました。次は古希の学年会でしょうか。

（のだ　あづま）

ご出席いただいた先生方（左から、高橋香代子先生・吉崎正子先生・井上雅子先生・佐古恵美先生）

137名の皆さんが参加した二次会

名簿作りの合間にはお花見や忘年会も（左から二人目 筆者）

定期的に会合を開いて名簿作り

お知らせ

代議員改選のお知らせ

平成26年度定時総会の承認を経て、平成27年度に初めての代議員制が導入されました。

学祖下田歌子先生が、1901年に桜同窓会を発足され自ら会長となられて、はや115年。

長きに渡り卒業生の集う同窓会も、現在の一般社団法人教育文化振興実践桜会となり、卒業生の親睦を深めることはもちろん、学園の支援や国際交流基金給付助成などの社会貢献に力を注いで活動しています。

代議員の任期は2年とされています。

今回、別紙にて「平成29年度代議員選出公示」と、立候補応募用葉書を同封いたしました。

代議員は議決権を持ち、総会に出席することが前提ですが、委任状も可となります。

実践桜会のさらなる継続の為、是非ご協力をお願いいたします。

お知らせ

桜会館にAEDを設置しました。

受付窓口内側に設置してあります。

東日本大震災岩手県宮古市支援プロジェクト　生活文化科会 北村はるか

実践女子大学・東日本大震災岩手県宮古市支援プロジェクトは本年度で6年目を迎えました。8月には被災地活動、9月には宮古産さんまの目黒のさんま祭りへの参加、10月・11月には常磐祭での被災地活動の報告、宮古市の特産物の販売、2月にはイオンモール多摩平の森で他大学5校と共に「大学生ボランティア活動報告＆防災イベント」にも参加しております。昨年度は延べ約200名の学生が参加し、今年度も8月に4日間の被災地活動を行いました。

8月被災地活動では、「被災地の皆さまとの交流」「被災地防災学習」「文化を知る」の3本柱で活動しております。被災地の様子は刻々と変化しています。被災地の変化に伴い、現在必要とされる活動は何かを学生自ら考え、仮設住宅や災害公営住宅、学童の家などでイベントを行いました。被災地支援には被災地の様子を知ること、また地域文化を通して支援を行うことも大切と考えております。被災地では鹿児島大学 岩船昌起先生(宮古市出身)による実地講義へ参加したり、今年度の常磐祭では田老婦人会の皆さまより教えていただいた宮古市のお雑煮を学生が手作りしたりする予定です。今年度の8月活動では、震災より5年半経った今だから必要とされるボランティアがあることを実感させられました。

仮設住宅の見学

津波により4階まで浸水したたろう観光ホテル

実践桜会は、日野分室（大学日野キャンパス内）を週2回（月・金）ボランティア活動の場として提供し、支援しております。

本部だより

お見舞い

4月の熊本地震から半年が過ぎました。
いまだに余震が続き、不安の中、
被害にあわれた同窓生の皆様ご家族の方々、
そして地域の皆様へ心よりお見舞いを申し上げます。

学祖祭

平成28年10月8日（土）
学園関係者と護国寺墓参。
中高桃夭館香雪記念室祭壇（神式）に参拝。
実践桜会会館にも祭壇を設置し（仏式）参拝。
その後はご宗家による余香の会を開催

実践桜会バザー開催

日時：10月29日（土）30日（日）9:30～15:30
会場：中高体育館ギャラリーアリーナ
全国各支部からの物産品、科会・会員の手作り品や寄贈品、また協力店様からの格安な品物も多数並びます。各種弁当等の販売もございます。
皆様、お誘い合わせの上、ぜひご来場ください。（当日は宅急便も利用可）
＊寄贈品ご提供のお願い：10月22日（土）まで受付けます。
＊鮮度を要する食品は10月27日（木）まで。HPにも掲載。
〒150-0011 東京都渋谷区東1-1-40　実践桜会文化部宛
TEL：03-3407-7459
FAX：03-3499-0835

初春歌舞伎観劇会

日時：平成29年1月8日（日）
場所：国立劇場
演目：国立劇場開場50周年記念
　　通し狂言　しらぬい譚　柳下亭種員ほか作
出演：尾上菊五郎ほか
チケット代1万1千円（含お弁当、解説イヤホン付）
お問い合わせ・お申込みは実践桜会事務局へ
TEL：03-3407-7459
FAX：03-3499-0835

会費納入のお願い

一般社団法人教育文化振興実践桜会の運営・活動は皆様の会費によって支えられています。
会費未納のかたは、振込用紙にてゆうちょ銀行および実践桜会本部窓口でご納入願います。
また、下記の銀行口座をつかい、銀行振り込みもご利用ください。**年会費2,000円**
みずほ銀行　渋谷中央支店（１６２）
口座番号　　普通　１１８９７９５
一般社団法人教育文化振興実践桜会
なお、振込用紙がない場合は、実践桜会会館までご連絡ください。TEL：03-3407-7459　FAX：03-3499-0835
※いずれの場合も会員番号のご記入をお願いいたします。
※熊本地震義援金216,320円集まりましたので熊本支部・大分支部ゆうちょ口座に振込みました。ありがとうございました。

実践桜会会館利用サークルのご案内

サークル名	活動曜日	主な内容
アトリエ染花	第１日曜日	工芸･飾り花
編み物の会	第３金曜日	工芸･編み物
実践桜会囲碁教室	第2･4月曜日	囲碁
英文輪読会Ａ	第2･4金曜日	英文学
英文輪読会Ｂ	第1･3金曜日	英文学
実践絵手紙の会	第３日曜日	絵手紙
かえで（楓）会	第２火曜日	染色
桂泉会	月２回土曜日	華道古流
香友会	不定期	香道
桜書道教室	月２回土曜日	芸術･書道
下田歌子先生の著作を読む会	第３日曜日	研究会:下田先生を広く知る
山川園松箏曲教室	月２回土曜日	山田流箏曲
童の会	不定期	文学･児童の研究と創作
十八の会	不定期	懇親会
ハーダンガーの会	第２木曜日	工芸･ハーダンガー刺繍
北欧刺繍に親しむ	不定期	北欧刺繍
マンドリンクラブOG会	不定期	音楽･マンドリン
実香会	第３土曜日	香道
萌黄会	第１月曜日･第３木曜日	日本刺繍
日本ギャスケル協会	第１又は第３日曜日(不定期)	ギャスケルの研究
日本バーナード･ショー協会	不定期	バーナード･ショーの研究
北欧クロスステッチ	不定期	北欧刺繍
JJF 総会	不定期	難波女子学園に在籍中の子女を持つ父親の会
青脈会	不定期	山岳部 OB 会
ハワイアンスクール	第１･3火曜日	健康フラとウクレレ
能を楽しもう	第2･4水曜日	謡い

2016.9 現在／お問合わせは会館事務局へ

ホームページに掲載する投稿記事や写真をお寄せ下さい。
広報部メールアドレス：jissen-sakura-koho@dance.ocn.ne.jp

学園だより

第18回「実践女子大学・同短期大学部ホームカミングデー」開催について

平成28年度第18回「実践女子大学・同短期大学部ホームカミングデー」（大学・短期大学卒業生対象）を下記のとおり開催いたします。ぜひご参加ください。
開催日：平成28年11月12日（土）常磐祭開催中
会　場：日野キャンパス　香雪記念館2階多目的室
開　会：13:00～
キャンパスツアー：13:10～13:50
懇親会：14:00～
　　懇親会場では下田歌子先生の特別展示を行います。

向田邦子文庫展示室

●「向田邦子の好きなもの①　―日常使いの器と料理―」
期　　間：平成28年8月1日（月）～11月30日（水）
開室時間：9:00～17:00
展示内容：向田さんが、普段使っていた食器を中心に展示します。雑誌『The骨董』第3集（昭和55年）に掲載された、「眼がある」の自筆原稿も展示します。

●「向田邦子の好きなもの②　―猫―（仮）」
期　　間：平成28年12月5日（月）～
　　平成29年3月25日（土）
開室時間：9:00～17:00
展示内容：向田さんの旧蔵書から、『猫』についての本などを展示します。猫が好きだった向田さんに思いを寄せて見て下さい。

＊休室日：日曜日、祝日、大学の休校日
　　（夏期一斉休校日、年末年始休校日ほか）
詳細はホームページ（http://jissen.ac.jp/library/）で確認をして下さい。

香雪記念資料館

展覧会「1797年、江戸の文化人大集合！　―佐藤一斎収集書画の世界―」
会　　期：平成28年10月10日（月）～12月10日（土）
休 館 日：日曜日・祝日
　　ただし10月10日（祝・月）・10月16日（日）は開館
　　※11月14日（月）は展示替えのため休館
開館時間：10:00～17:00
会　　場：実践女子大学香雪記念資料館　企画展示室
主　　催：実践女子大学香雪記念資料館

公開市民講座

〈渋谷キャンパス〉
●英文学科
日時：平成28年10月15日（土）14:00～16:00
内容：「文学」から離れて文学を考える
　　―「事実」と「フィクション」の間

●国文学科
日時：平成28年10月29日（土）13:00～17:00
内容：宮沢賢治生誕120年記念
　　宮沢賢治の愉しみ・研究の現在とこれから

●人間社会学部
日時：平成28年12月3日（土）13:00～17:00
内容：どうする？　どうなる？　女性のキャリア
　　― 仕事×育児×介護の時代

〈日野キャンパス〉
申込要・問い合わせ　学務部庶務課 042（585）8817
●食生活科学科
日時：平成28年10月22日（土）11:00～14:00
内容：スパイス・ハーブを使って食生活を豊かに

●生活文化学科
日時：平成28年11月18日（金）11:00～14:30
内容：社会の中で大人は支えあえるのか

新刊紹介

『婦人常識訓』
（「新編下田歌子著作集」の1冊目として出版。）
―女子教育の先覚者、下田歌子が女性のほんとうの幸せを願って書き残した娘、妻、母そして一個の人としての心得―

監　修：実践女子学園
　　下田歌子研究所
校　注：伊藤由希子
　　（下田歌子研究所　主任研究員）
出版社：株式会社三元社

【総務部】

1）理事会（13回）、常任理事打ち合せ会（12回）の開催
　運営委員会開催（春季・4月11日、秋季・10月3日）
2）定時総会開催（5月17日）
3）公開市民講座、同地区懇談会
　（大学・短期大学部後援会／実践桜会共催）
　静岡支部との懇談会開催（於：静岡・8月29日）
4）学祖祭（10月8日）
　護国寺墓参、中高桃夭館香雪記念室祭壇参拝
　実践桜会会館内祭壇設置、実香会によるお供え香
5）入学、卒業祝い記念品の贈呈（4月、3月）
6）支部、系列科会への助成事業（45団体）
9）大学・短期大学部「常磐祭」に参加
　渋谷（10月17日・18日）日野（11月7日・8日）
8）祝成人の会（1月11日）
　（実践女子学園／実践桜会共催 ときわ会協賛）
9）その他学園の懇親等行事に参加
10）コンピューターによる名簿管理
11）会員サービス事業の推進
　（実践桜会全国交流会岩村への旅、高知支部交流会）
12）実践桜会会館・日野分室（本館541号室）の管理

【事業部】

1）学園助成金贈呈（5月17日）
2）実践桜会奨学基金：実践女子大学生1名、
　学園高校生1名に給付
3）実践桜会国際交流基金：在日留学生2名に給付
　（奨学生交流会を10月と3月に実施）
4）社会活動助成金支給：学園関係1団体、12支部、5科会
5）大学・短期大学部「常磐祭」へ協賛金と桜会賞を贈呈
6）結婚相談（第2、第4土曜日）
7）法律相談（第2水曜日）
8）生涯学習活動支援
9）貸室業務
10）実践桜会所蔵図書の貸出しと整備・購入

平成 27 年度
会館利用状況
（平成 28 年 3 月 31 日現在）

月	件数	人数
4	38	295
5	30	267
6	39	481
7	30	339
8	11	72
9	38	356
10	27	225
11	36	309
12	25	177
1	28	249
2	30	280
3	34	289
合計	366 件	3339 名

【文化部】

1）実践桜会バザー開催（10月24・25日）
　於：実践女子学園中高ときわ祭
　　中高体育館ギャラリーアリーナ会場
2）初春歌舞伎観劇会（平成28年1月10日）於：国立劇場
3）母校記念品販売取扱
4）親睦会（実践桜会全国交流会岩村への旅）

【広報部】

1）「那与竹」第78号発行（平成27年4月1日）
2）「なよたけ情報版」第21号発行（平成27年10月1日）
3）実践桜会公式ホームページの管理・運営
　実践女子大学公開講座へのバナー作成
　スライドショーのリニューアル
　Webマガジンのリニューアル
4）地域交流の推進（実践桜会全国交流会岩村への旅、
　　高知支部交流会）
5）「那与竹」第79号の編集

【キャリアネット】

1）運営委員会開催
2）総会・記念講演会（平成27年6月20日）
　講師：渡辺美佐子氏（本学卒業生・女優）
3）第1回セミナー（平成27年11月28日）
　講師：貝山幸子氏（本学卒業生・シャンソン歌手）
　第2回セミナー（平成28年2月20日）
　講師：山内千夏氏（本学卒業生・料理研究家）
4）卒業生と在校生との交流会～OG懇談会～
　平成28年2月19日（於：渋谷）
5）卒業生のための仕事についての何でも相談会
　（毎月第4土曜日）

秋田先生の法律相談

桜会会員の皆さまを対象に、弁護士として豊富な経験と実績をもつ秋田瑞枝氏（同窓生）による法律相談です。毎月1回、実践桜会会館で行いますので、身の回りの諸事お困りごとをお気軽にご相談ください。秘密厳守をお約束します。

［相談室］
1.月1回、第2水曜日11時~16時
2.相談時間1回30分
3.休室 祝日・8月
［会場］実践桜会会館（渋谷）
［申込方法］
1.事前に電話で予約してください（先着順）
2.関係資料などは相談時にご持参ください

プロフィール●昭和40年実践女子学園高等学校を卒業後、慶應義塾大学法学部法律学科に進学。在学中に司法試験第2次試験に合格、昭和54年港総合法律事務所（東京港区）開設、平成9年ひのき総合法律事務所開設

貸借対照表

平成28年3月31日現在

（単位：円）

科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ資産の部			
1 流動資産			
現金	285,561	530,755	△ 245,194
普通預金	13,910,750	9,058,903	4,851,847
定期預金	0	4,487,382	△ 4,487,382
流動資産合計	14,196,311	14,077,040	119,271
2 固定資産			
(1)基本財産			
預金その他			
定 期 預 金	27,966,601	27,966,601	0
基本財産合計	27,966,601	27,966,601	0
(2)特定資産			
実践桜会奨学特定資産	10,750,000	11,350,000	△ 600,000
国際交流特定資産	53,400,000	54,360,000	△ 960,000
退職給付引当資産	77,231	410,100	△ 332,869
特定資産合計	64,227,231	66,120,100	△ 1,892,869
(3)その他固定資産			
定期預金等	56,070,000	53,700,000	2,370,000
減価償却資産			
建物	64,279,218	65,681,673	△ 1,402,455
建物附属設備	22,140,554	24,188,410	△ 2,047,856
什器備品等	673,866	776,438	△ 102,572
その他固定資産合計	143,163,638	144,346,521	△ 1,182,883
固定資産合計	235,357,470	238,433,222	△ 3,075,752
資産合計	249,553,781	252,510,262	△ 2,956,481

科目	当年度	前年度	増減
Ⅱ負債の部			
1 流動負債			
前受金	3,542,000	3,144,000	398,000
預り金	36,445	37,508	△ 1,063
流動負債合計	3,578,445	3,181,508	396,937
2 固定負債			
入会予納金	56,070,000	53,700,000	2,370,000
退職給付引当金	77,231	410,100	△ 332,869
固定負債合計	56,147,231	54,110,100	2,037,131
負債合計	59,725,676	57,291,608	2,434,068
Ⅲ正味財産の部			
1 指定正味財産			
寄付金	92,116,601	93,676,601	△ 1,560,000
指定正味財産合計	92,116,601	93,676,601	△ 1,560,000
(うち基本財産への充当額)	(27,966,601)	(27,966,601)	0
(うち特定資産への充当額)	(64,150,000)	(65,710,000)	△ 1,560,000
2 一般正味財産	97,711,504	101,542,053	△ 3,830,549
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	0
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	0
正味財産合計	189,828,105	195,218,654	△ 5,390,549
負債及び正味財産合計	249,553,781	252,510,262	△ 2,956,481

正味財産増減計算書

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

（単位：円）

科目	当年度	前年度	増減額
Ⅰ 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1)経常収益			
基本財産運用益	12,014	13,935	△ 1,921
基本財産受取利息	12,014	13,935	△ 1,921
特定資産運用益	27,999	33,698	△ 5,699
特定資産受取利息	27,999	33,698	△ 5,699
受取入会金	12,070,000	12,830,000	△ 760,000
受取入会金	12,070,000	12,830,000	△ 760,000
受取会費	11,574,000	12,510,000	△ 936,000
年会費	11,422,000	12,348,000	△ 926,000
キャリアネット年会費	152,000	162,000	△ 10,000
事業収益	5,886,699	5,600,451	286,248
生涯教育活動収益	249,000	215,500	33,500
貸室収入	1,147,100	883,450	263,650
社会活動収益	793,000	693,000	100,000
バザー収益	2,114,685	1,888,181	226,504
母校記念品販売収益	53,914	140,320	△ 86,406
会合負担金収益	1,529,000	1,780,000	△ 251,000
受取寄付金	3,894,260	7,179,978	△ 3,285,718
受取寄付金	2,334,260	4,659,978	△ 2,325,718
受取寄付金振替額	1,560,000	2,520,000	△ 960,000
雑収益	615,036	914,071	△ 299,035
受取利息	29,300	33,874	△ 4,574
雑収益	585,736	880,197	△ 294,461
経常収益計	34,080,008	39,082,133	△ 5,002,125
(2)経常費用			
事業費	27,046,163	29,970,497	△ 2,924,334
母校助成金	2,421,400	4,000,000	△ 1,578,600
常磐祭助成金	260,000	200,000	60,000
奨学給付金	600,000	600,000	0
国際交流給付金	960,000	1,920,000	△ 960,000
国際交流事業雑費	40,983	34,738	6,245
図書費	89,822	99,224	△ 9,402
社会活動助成金	2,431,718	2,245,991	185,727
バザー仕入	976,903	1,024,710	△ 47,807
母校記念品仕入	62,794	162,868	△ 100,074
広報費	5,494,448	5,897,380	△ 402,932
給料手当	3,877,089	3,545,929	331,160
通勤費	392,852	408,604	△ 15,752
旅費交通費	337,416	457,482	△ 120,066
福利厚生費	78,511	76,420	2,091
報酬委託手数料	1,101,358	1,083,479	17,879
事務用品費	197,847	494,836	△ 296,989
賃借料	675,162	746,112	△ 70,950

科目	当年度	前年度	増減額
通信費	394,085	619,238	△ 225,153
会館管理費	1,087,091	1,135,221	△ 48,130
水道光熱費	1,127,638	1,117,484	10,154
会館営繕費	154,243	263,426	△ 109,183
租税公課	718,288	718,288	0
減価償却費	3,108,772	3,045,496	63,276
雑費	457,743	73,571	384,172
管理費	10,864,394	12,692,301	△ 1,827,907
給料手当	1,292,363	1,181,977	110,386
通勤費	130,952	136,200	△ 5,248
旅費交通費	2,469,306	2,542,536	△ 73,230
福利厚生費	26,171	25,474	697
報酬委託手数料	1,350,000	1,276,805	73,195
事務用品費	529,241	702,126	△ 172,885
賃借料	675,163	746,106	△ 70,943
通信費	317,093	573,333	△ 256,240
会館管理費	248,579	206,430	42,149
水道光熱費	161,091	159,636	1,455
会館雑費	168,580	317,430	△ 148,850
租税公課	185,514	172,612	12,902
交際費	244,840	365,856	△ 121,016
総会費	2,621,390	3,850,710	△ 1,229,320
減価償却費	444,111	435,070	9,041
経常費用計	37,910,557	42,662,798	△ 4,752,241
当期経常増減額	△ 3,830,549	△ 3,580,665	△ 249,884
2 経常外増減の部			
(1)経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2)経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 3,830,549	△ 3,580,665	△ 249,884
一般正味財産期首残高	101,542,053	105,122,718	△ 3,580,665
一般正味財産期末残高	97,711,504	101,542,053	△ 3,830,549
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
基本財産運用益	12,014	13,935	△ 1,921
基本財産受取利息	12,014	13,935	△ 1,921
特定資産運用益	27,999	33,698	△ 5,699
特定資産受取利息	27,999	33,698	△ 5,699
一般正味財産への振替額	△ 1,600,013	△ 2,567,633	967,620
当期指定正味財産増減額	△ 1,560,000	△ 2,520,000	960,000
指定正味財産期首残高	93,676,601	96,196,601	△ 2,520,000
指定正味財産期末残高	92,116,601	93,676,601	△ 1,560,000
Ⅲ 正味財産期末残高	189,828,105	195,218,654	△ 5,390,549